

ラス下地既調合軽量セメントモルタル塗り工法  
施工要領書(案)

制定日 2013年6月21日

第1.0版

日本建築仕上材工業会  
軽量セメントモルタル部会技術委員会

## 目次

### 第1章 総則

1. 目的	1
2. 適用範囲	1
3. 免責事項	2

### 第2章 直張り構法

1. 施工のフローチャートと本章の適用範囲	3
2. 材料	4
2.1 法令	4
2.2 使用材料詳細	4
3. 施工方法	7
3.1 防水シートの張付け	7
3.2 メタルラスの張付け	10
3.3 軽量モルタルの塗付け、補強用ネットの伏込み	17
3.4 サッシ回り、貫通部回り等のシーリング処理(仕様により省略)	19
3.5 後片付け・清掃	20
3.6 仕上げ材施工までの養生期間	20
4. 左官工事工程検査	20
5. 注意事項	20
5.1 施工上の注意事項	20
5.2 取り扱い時の安全対策(概要)	20

### 第3章 単層下地通気構法

1. 施工のフローチャートと本章の適用範囲	22
2. 材料	23
2.1 法令	23
2.2 使用材料詳細	23
3. 施工方法	25
3.1 透湿防水シートの張付け(前工程工事)	25
3.2 胴縁の留付け(前工程工事)	28
3.3 防水紙付きラスの張付け	30
3.4 軽量モルタルの塗付けと補強用ネットの伏込み	35
3.5 サッシ回り、貫通部回り等のシーリング処理(仕様により省略)	38
3.6 後片付け・清掃	38
3.7 仕上げ材の施工	38
4. 左官工事工程検査	38
5. 各部の納まり	39
6. 注意事項	42
6.1 施工上の注意事項	42
6.2 取り扱い時の安全対策(概要)	42

## 第4章 二層下地通気構法

1. 施工のフローチャートと本章の範囲	44
2. 材料	45
2.1 法令	45
2.2 使用材料詳細	45
3. 施工方法	48
3.1 透湿防水シートの張付け(前工程工事)	48
3.2 胴縁等の留付け(前工程工事)	51
3.3 防水シートの張付け	52
3.4 メタルラスの張付け	55
3.5 軽量モルタルの塗付け、補強用ネットの伏込み	62
3.6 サッシ回り、貫通部回り等のシーリング処理(仕様により省略)	64
3.7 後片付け・清掃	64
3.8 仕上げ材施工までの養生期間	65
4. 左官工事工程検査	65
5. 注意事項	65
5.1 施工上の注意事項	65
5.2 取り扱い時の安全対策(概要)	65

### 本施工要領書の位置付けと使い方

外壁のモルタル仕上げは、色々な形状に対応できるほか、表面に塗装などの仕上げを施すことによって、多彩な色や模様が表現できるため、特に都市部の戸建住宅を主体として根強い人気があります。しかし、一方では工事の良否によって性能が左右されることもあり、工事の実施にあたっては所定の工事仕様書に準拠することが前提となっています。ただし、工事仕様書には使用する材料の使い方や納め方などの詳細が示されていないので、本施工要領書と併せて工事計画を立案し、工事を実施することが肝要です。なお、本施工要領書は工場生産で安定した品質の既調合軽量セメントモルタル(以下、軽量モルタルという。)を供給している製造業者団体が、良質なモルタル仕上げ外壁の確保を目的として作成したものです。

したがって、住宅の所有者、設計者、工事管理者、施工者などの関係各位におかれましては、設計・施工の段階で本施工要領書を有益に活用して戴けるよう期待するものであります。

なお、巻末には施工管理のためのチェックシートを例示しておりますが、不十分なところは活用される方の経験などにより、適宜アレンジしてご利用戴ければ幸いです。

# 第 1 章 総 則

## 1. 目的

本施工要領書は、木造住宅の外壁を既調合軽量セメントモルタル(以下、軽量モルタルという。)で仕上げる工事を対象として、主に設計者及び施工者向けに施工要領や管理上の注意事項等を示すことによって、設計・施工における軽量モルタル仕上げ外壁の性能並びに工事の品質を確保することを目的とする。

### <解説>

一般の木造住宅において、外壁のラス下地に軽量モルタル塗りを行う場合、設計・施工が正しく行われないと様々な問題が発生する可能性があるため、工事の手順や内容を詳しく説明した施工要領書の整備が求められていた。

また、近年においては長期優良住宅への関心が高まってきているため、既に標準化されている日本建築学会の「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 15 左官工事」や住宅金融支援機構の「木造住宅工事仕様書」及び「枠組壁工法住宅工事仕様書」等よりも高品質・高耐久性に配慮された工事仕様の標準化や施工要領書の整備が求められている。

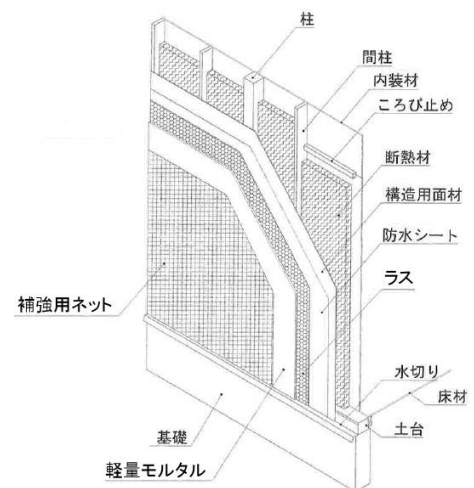
このような背景にあって、本施工要領書は日本建築仕上材工業会軽量セメントモルタル部会技術委員会において作成したものである。

## 2. 適用範囲

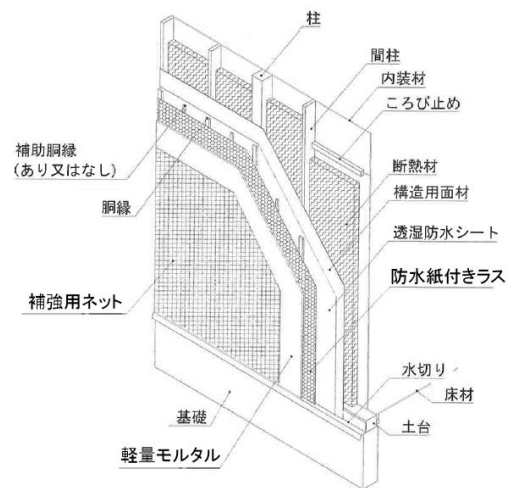
1) 本施工要領書は、木造住宅の軸組構法、枠組壁工法、木質系組立構造の外壁において、ラス下地に軽量モルタル仕上げを行う場合の直張り構法、単層下地通気構法及び二層下地通気構法に適用する。なお、鉄骨構造は適用外とする。

### <解説>

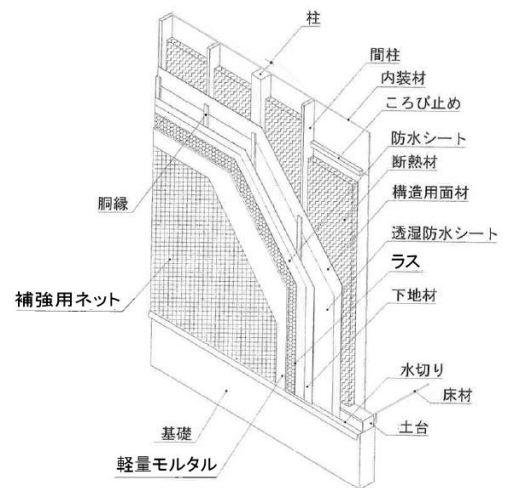
**直張り構法**: 構造躯体にラス下地板、面材、防水シートを留め付け、その上から通気層を設けずにラスを留め付け、軽量モルタルで仕上げる構法



**単層下地通気構法:** 胴縁による通気層を設けて、ラスモルタルを施工する場合のうち、構造体に透湿防水シートなどを留め付け、柱・間柱上に通気用の縦胴縁をくぎで留め付け、その上から防水紙付きラス(又は防水紙とラス)を留め付け、軽量モルタルで仕上げる構法。



**二層下地通気構法:** 構造体に透湿防水シートなどを留め付け、柱・間柱上に通気用の縦胴縁をくぎで留め付け、その上からラス下地板又は、面材などを施工し、防水紙、ラスを留め付け、軽量モルタルで仕上げる構法。



2) 別途特記仕様や管理者の指示がある場合はこれを優先する。

### 3. 免責事項

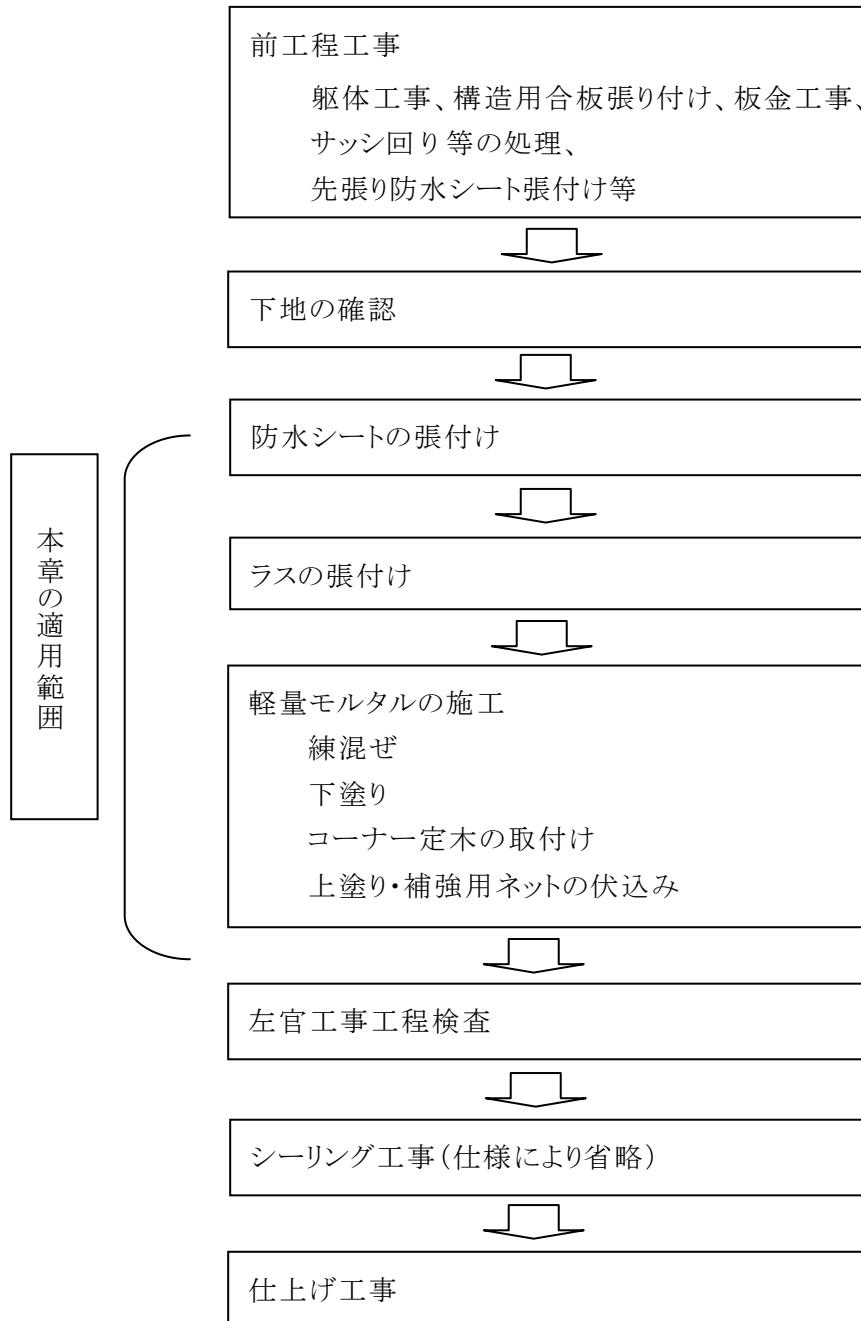
- 1) 本施工要領書を参考にし、欠陥及びそれが原因で発生した損失や損害については、一切責任を負わない。また、本施工要領書を利用したユーザの違法又は不適切な行為により、他のユーザに損失や損害が発生した場合でも、当工業会はかかる損失や損害について一切の責任を負わない。
- 2) 本施工要領書の掲載情報については、調査、確認の上で掲載しているが、情報が変更になっている場合がある。そのため、必ず最新の情報を確認する。
- 3) 本施工要領書では参考として他の刊行物について触れているが、当該刊行物に掲載された情報の正確性、合法性を保証するなど、参考元の図書の利用につき問題が生じた場合、当該責任は当会では負わない。

## 第2章 直張り構法

### 1. 施工のフローチャートと本章の適用範囲

施工のフローチャートと本章の適用範囲を以下に示す。

#### 直張り構法



## 2. 材料

### 2.1 法令

防火構造等の指定がある場合は、各使用材料・工法が認定条件に適合していることを確認する。

### 2.2 使用材料詳細

本施工要領書で使用する材料

<p><b>軽量モルタル</b></p> <p>JASS 15 M-102 ラス系下地用既調合軽量セメントモルタルの品質規準 適合品</p>
<p><b>防水シート及び留付け用ステーブル</b></p> <p><b>防水シート</b></p> <p>JIS A 6005(アスファルトルーフィングフェルト)に適合するアスファルトフェルト430以上、改質アスファルトフェルト又はこれらと同等以上の性能を有するものとする</p> <p><b>留付け用ステーブル</b></p> <p>足長 10mm以上</p>
<p><b>防水テープ</b></p> <p>片面粘着防水テープ</p> <p>防水シートの製造業者の指定品</p> <p><b>&lt;解説&gt;</b></p> <p>防水テープと防水シートは組み合わせにより、接着力が確保できない場合があるので、注意する。</p>
<p><b>ラス及び留付け用ステーブル</b></p> <p><b>ラス</b></p> <p>JASS 15 M-101 ラス系下地用鋼製金網の品質規準適合品で質量700g/㎡以上、補強用を除き平ラスは使用しない。</p> <p><b>補強用平ラス</b></p> <p>JASS 15 M-101 ラス系下地用鋼製金網の品質規準適合品、質量450g/㎡以上。開口部回り等の補強用に使用する。</p> <p><b>留付け用ステーブル</b></p> <p>JASS 15 M-105 ラス系下地用ステーブルの品質規準及びJIS A 5556(工業用ステーブル)に適合品。</p> <p><b>推奨ラス及び留付け用ステーブル</b></p> <p>○メタルラス波形1号</p> <p>留付け用ステーブル 1019J又は、これより足長又は線径が上回るもの</p> <p>○カ骨付きラス(波付き)</p> <p>留付け用ステーブル 719M又は、これより足長又は線径が上回るもの</p>

＜解説＞

ステーブルは、ラス及びモルタルを下地に留め付けるために重要である。ステーブルは、線径や足の長さにより強度及び変形性状が異なるので、躯体および下地材の変形に対して追従できる長さと破断を防ぐ強度が必要である。線径と足の長さが地震時のはく落を防ぐ上で重要な部分となる。

防水シートとラスの組み合わせは次の通りとする。

ラス 防水シート	メタルラス波形1号	力骨付きメタルラス
アスファルトフェルト430	○	◎
改質アスファルトフェルト	◎	◎
その他の上記と同等以上の性能を有する防水シート	製造業者の仕様による	

＜解説＞

上記◎の組み合わせは、防水シートのしわの発生を抑制するため、ひび割れを低減できる。

補強用ネット

耐アルカリ性ガラス繊維ネット

目開き 4～10mm

質量 130g/m<sup>2</sup>以上

ジルコニア分16%以上の耐アルカリ性ガラス繊維ネットを推奨

＜解説＞

耐アルカリ性ガラス繊維ネットを軽量モルタル表面に伏せこむことにより、ひび割れを効果的に抑制できる。

耐アルカリ性ガラス繊維ネットとして市販されている製品には、ジルコニアを混入し、ガラス繊維自体の耐アルカリ性を確保したものと、ガラス繊維の表面に耐アルカリ処理したものがある。

耐久性を考慮し、日本GRC工業会規格(ガラス繊維補強セメント板(GRC板)の材料規格)に準じた、ジルコニア分16%以上の耐アルカリ性ガラス繊維ネットを推奨する。

その他の材料(前工程及び後工程工事)

下地材

構造用合板 9mm厚以上のもの

＜解説＞

下地材として構造用合板は、小幅板のように隙間がないため、ステーブルを打つ際に防水シートを破きにくい。また、ステーブルに対する保持力にも優れているため、下地材は構造用合板に限定した。

先張り防水シート

アスファルトルーフィング工業会規格「改質アスファルトルーフィング下葺き材ARK-04s」と同等以上の防水性能を有するものを推奨する。



### 防水テープ

両面粘着防水テープ  
防水シートの製造業者の指定品

### シーリング

JIS A 5758(建築用シーリング材)適合品で、JISの耐久性による区分の8020の品質又はこれと同等以上の耐久性を有するものとし、仕上塗材製造業者に確認する。

#### <解説>

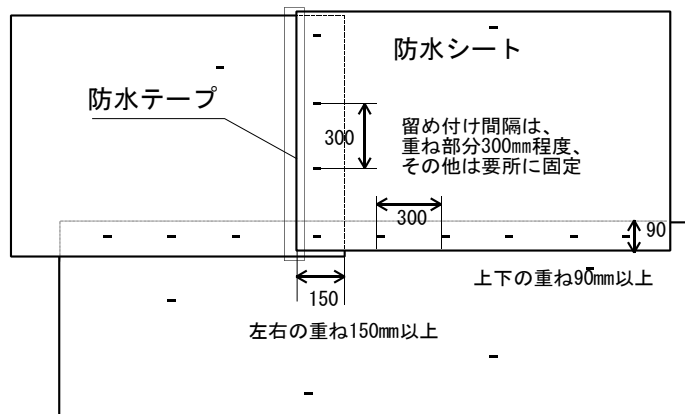
シーリング材の選択は、仕上げ材との相性があるため、仕上塗材製造業者に確認することとした。一般的には1成分形変成シリコン系(略号:MS-1)、1成分形ポリサルファイド系(略号:PS-1)、1成分形ポリウレタン系(略号:PU-1)が使われている。

### 3. 施工方法

#### 3. 1 防水シートの張付け

##### 1) 張り方向、配置、留付け間隔

- ・防水シートは横張りとし、継ぎ目は左右150mm以上、上下90mm以上重ねて、水平に張り付ける。たるみ、しわのないよう十分伸ばしながら、防水シートを傷つけないように、タッカーを用いて上から打ち留める。タッカーはガンタッカー又は電動タッカーを使用し、ハンマータッカー及びエアータッカーは使用しない。
- ・留付け間隔は、重ね部分は300mm程度、その他の箇所は要所に留め付け、防水シートの左右の継ぎ目には防水テープを張る。

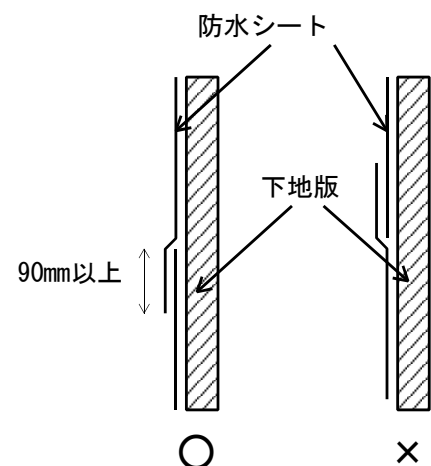


#### <解説>

- ・防水シートのたるみ、しわはひび割れ発生の原因となるので注意する。
- ・雨水などの横流れ防止による防水性の強化と、ラス及びモルタル施工までに風圧などの外力によるステープル孔の拡大による防水性低下を防止するために、防水テープを防水シート左右の継ぎ目に張ることとした。

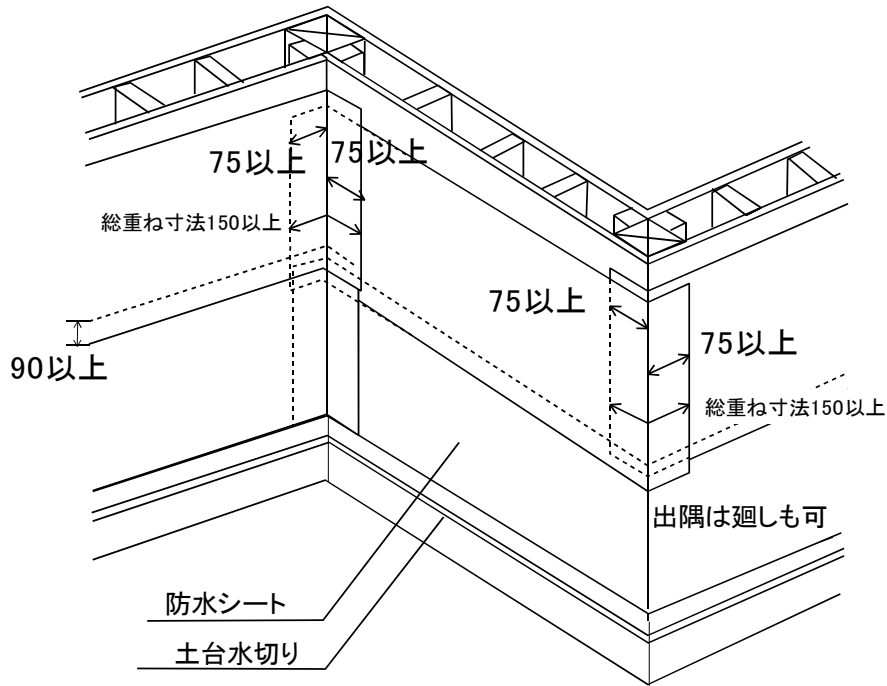
##### 2) 上下の重ね

防水シートの上下の重ねは、重ね代を90mm以上とし、上にくる防水シートが外側になるように張り付ける。



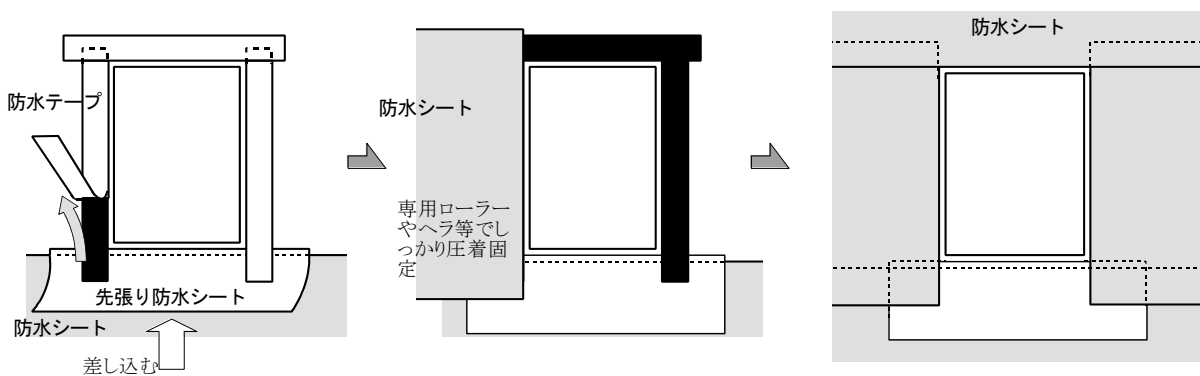
### 3) 出隅・入隅

- ・入隅は両側それぞれ 75 mm以上(総重ね 150 mm以上)重ねて張る。
- ・出隅は継ぎ目を設けずに通して張るか、両側それぞれ 75 mm以上(総重ね 150 mm以上)重ねて張る。



### 4) サッシ周囲の処理

- ・両面粘着防水テープの剥離紙を防水シートを張る直前に剥がす。
- ・先張り防水シートの内側に防水シートを差し込む。
- ・防水テープの接着面は専用ローラーやヘラなどでしっかり圧着固定する。

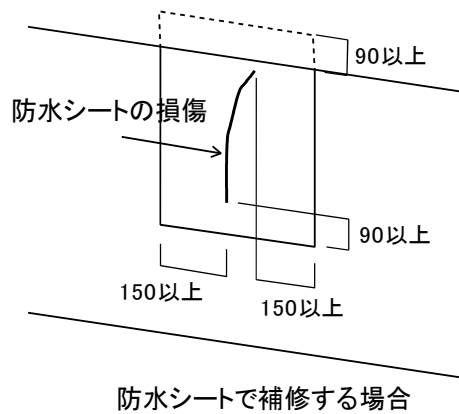
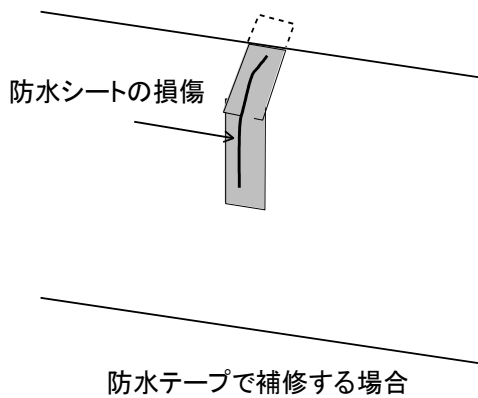


5) 先張り防水シート取合い部の納まり

- ・軒天等、先張り防水シートを使用している部分には先張り防水シート内側に防水シートを90mm以上差し込む。

6) 防水シートが損傷した場合の処理

- ・万一、防水シートが損傷した場合は、防水テープを使用するか、防水シートを重ね張りして補修する。

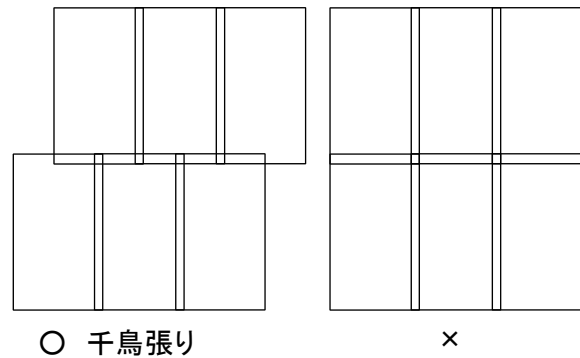


### 3. 2メタルラスの張付け

#### (1) 波形ラスの場合

##### 1) 張り方向 配置

- ・縦又は横張りとし、千鳥張りとする。



#### <解説>

波形ラスは、縦張り、横張りが可能である。

千鳥張りとしないと4枚重ね部分ができ、平面性や軽量モルタルの充填性が悪くなる。

##### 2) 継ぎ目

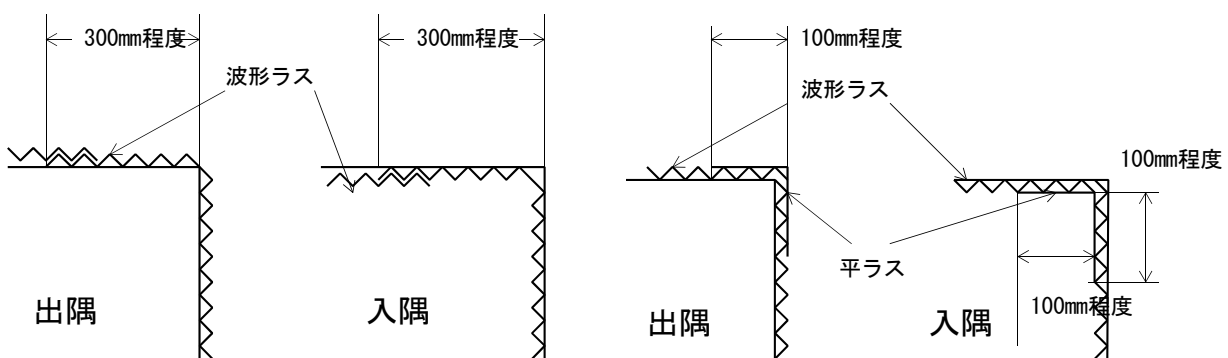
- ・ラスの継ぎ目はラスの長手方向1山以上、短手方向30mm以上重ねる。

##### 3) ラスの固定

- ・ステープレの間隔は継ぎ目部70mm以内、中間部100mm以内とし、浮き、たるみができないよう千鳥に谷部を留め付ける。
- ・ステープレの留付けは、エアータッカーを使用する。

##### 4) 出隅部、入隅部の処理

- ・縦張りの場合は、回し張り又は突き付け張りとし、横張りの場合は、突き付け張りとする。
- ・回し張りとする場合は、コーナーから300mm程度廻す。
- ・突き付け張りとする場合は、200mm幅程度の補強用平ラスを中央部から90°に折り曲げ(片面100mm程度)、上から張り付ける。



回し張りの処理

突き付け張りの処理

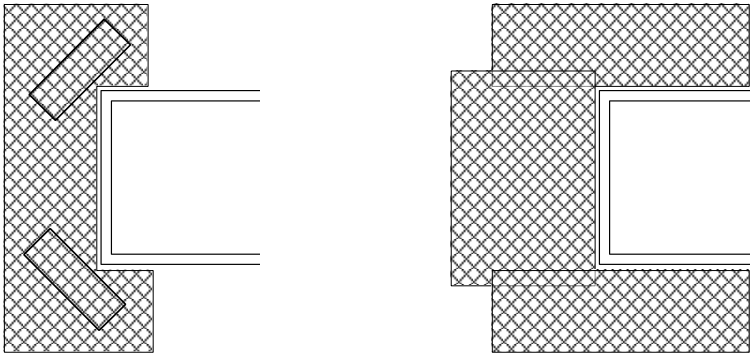
#### <解説>

ラスの浮き・たるみや固定不良は軽量モルタルのひび割れの原因となるので注意する。

横張りの場合、出入隅部を、回し張りとする、浮き、たるみが発生しやすくなるため、禁止する。

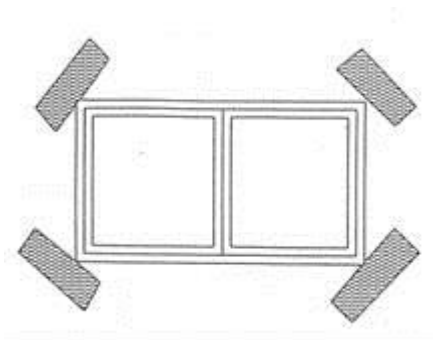
5) 開口部回り等の処理

- ・開口部(サッシ等)の隅角部にはラスの継ぎ目を設けず、開口部(サッシ)の形にあらかじめラスを切断し、張り付ける。

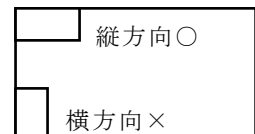


○ 開口部の形にあらかじめラスを切断    × 隅角部にラスの継ぎ目を設ける。

- ・開口部4隅に出来るだけ近づけて150×400mm程度以上の補強用平ラスを重ね張りし、補強する。その他、構造的に弱い部分、振動する部分にも重ね張りする。  
(注)必ず、補強用平ラスの重ね張りは波形ラスを張った後に行う。



補強用平ラスは縦(長手)方向に切断する。



<解説>

- ・軽量モルタルの乾燥収縮、及び様々な原因によるひび割れは開口部4隅の斜め方向に入りやすい傾向があるため、補強用平ラスで補強をする仕様とした。
  - ・平ラスは縦方向の引っ張り強度が大きい特性がある。このため切断方向は縦方向とした。
- また、補強用平ラスは、補強効果を考慮し、必ず波形ラスを張った後に(上に)張る。

#### 6) アルミサッシ回り

電解腐食を避けるため、ラスがアルミサッシと接触しないように10mm以内で離して留め付ける。

##### <解説>

・イオン化傾向の異なる金属が接触すると、電位差が生じて電流が流れ、イオン化傾向の大きな金属が腐食する。この現象を電解腐食という。

・ラスがアルミサッシに接触すると電解腐食により、アルミが腐食するため、ラス施工時にはラスをアルミサッシに接触させてはならない。

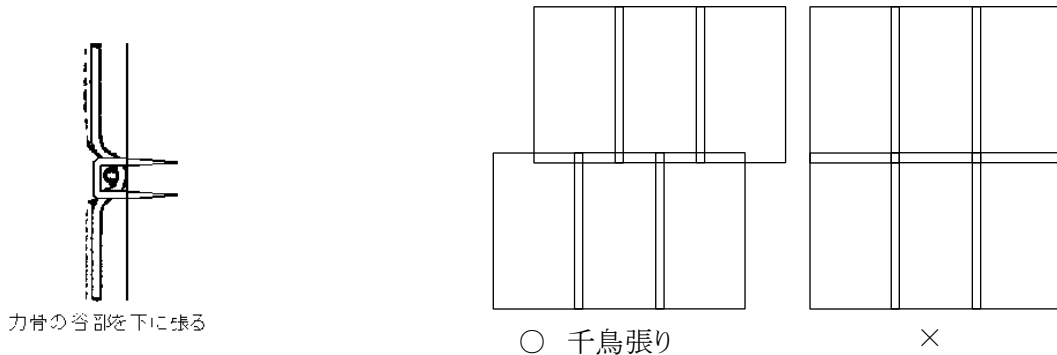
#### 7) 防水シートの確認

ラス工事完了後に防水シートの損傷が確認された場合は、防水テープを使用するか、防水紙を重ね張りして補修する。

## (2) 力骨付きラスの場合

### 1) 張り方向、配置

- ・縦又は横張りとし、千鳥張りとする。
- ・表裏を確認し、力骨の谷部を下側にして張る。

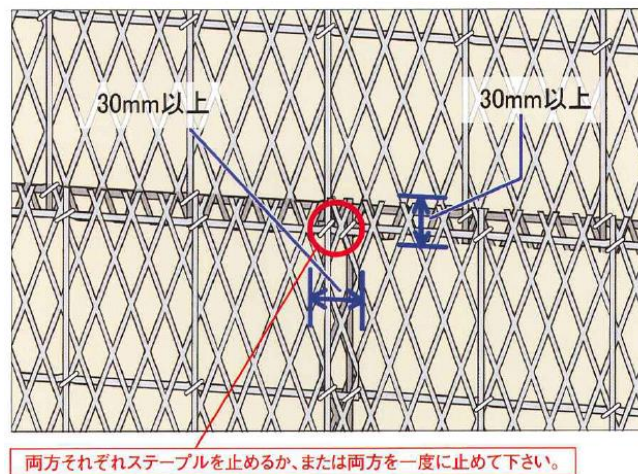


### <解説>

- ・力骨付きラスは、縦張り、横張りいずれとすることもできる。力骨の形状により表裏の別があり、力骨の谷部が下地側となるように張る。
- ・千鳥張りとしないと4枚重ね部分ができ、平面性や、軽量モルタルの充填性が悪くなる。

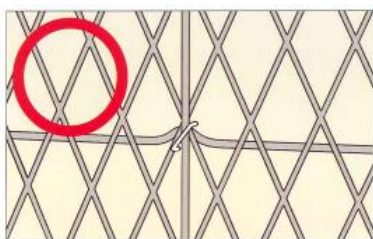
### 2) 継ぎ目

- ・ラスの継ぎ目の重ねは上下、左右とも、30mm以上とし、かつ力骨どうしを重ねない。

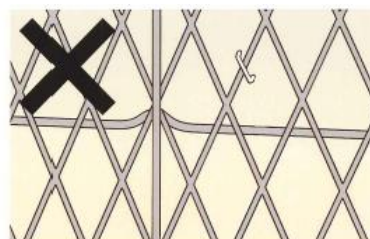


### 3) ラスの固定

- ・エアータッカーを使用し、ラスの力骨の交点に縦横150mm間隔で、浮き・たるみが無いようにステーブルを打つ。



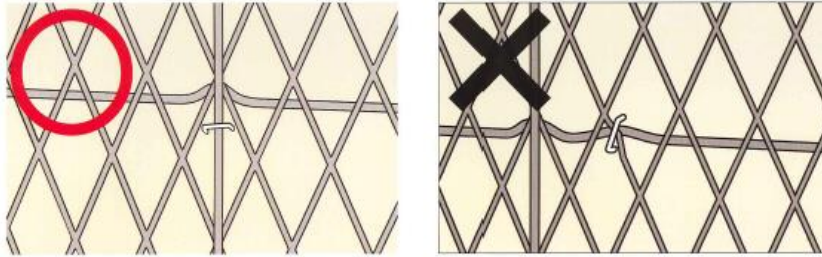
原則力骨の交点に打つ



平ラス部分には打たない

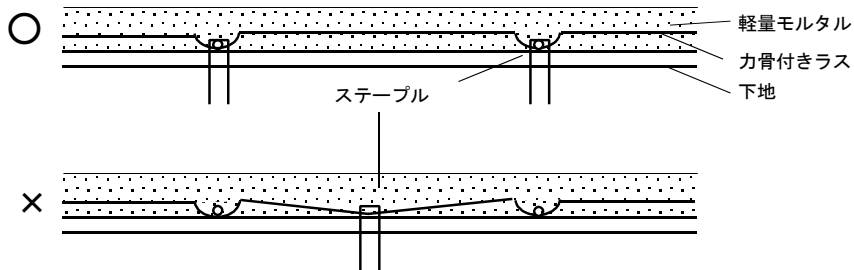


- 下地にサッシのフィンや金物などがあるなどの理由で力骨の交点に打てない場合は、出来るだけ交点に近いところにステープルを打つ。その場合は、必ずまっすぐな力骨(波の付いていない方)に打つ。



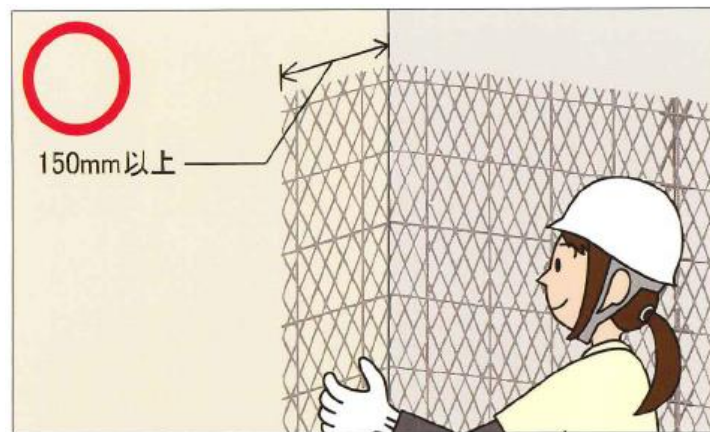
力骨の交点に打てない場合は出来るだけ 波付の力骨には打たない。  
 近い、まっすぐな力骨に打つ

注) 波付の力骨にステープルを打つとラスが軽量モルタルの中央近くに入らない。

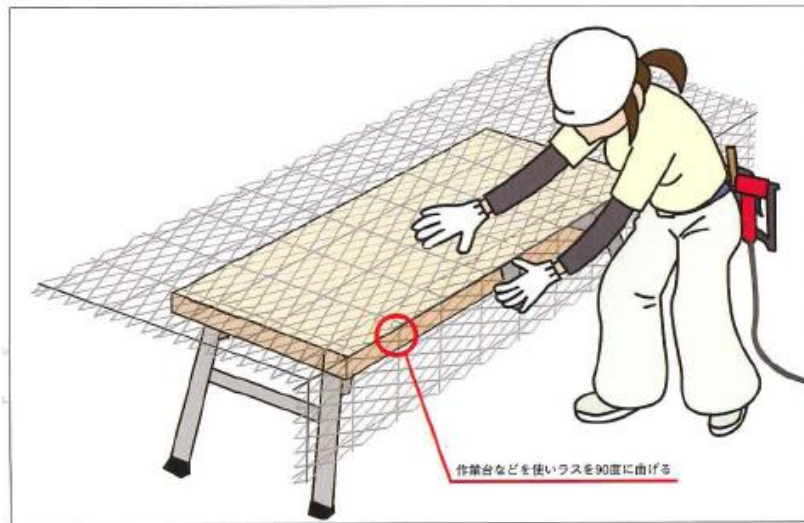


#### 4) 出隅部、入隅部の処理

- 必ず折り曲げ部を150mm以上取って、回し張りとする。突き付け張り施工はしない。

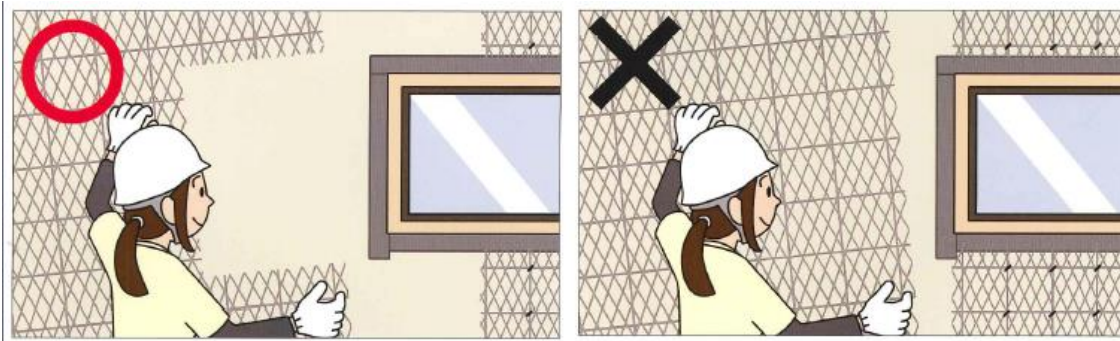


- ・張る前にラスをきちんと直角に折り曲げておく。事前に直角曲げをしない状態での施工はしない。

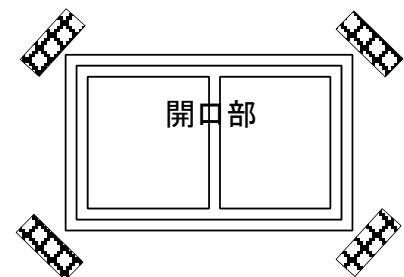


### 5) 開口部回り等の処理

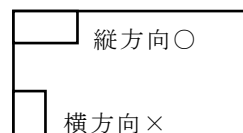
- ・開口部(サッシ等)の隅角部にはラスの継ぎ目を設けず、開口部(サッシ)の形にあらかじめラスを切断し、張り付ける。



- ・開口部4隅に出来るだけ近づけて150×400mm程度以上の補強用平ラスを重ね張りし、補強する。



- ・補強用平ラスは縦(長手)方向に切断する。



- ・その他、構造的に弱い部分、振動する部分にも重ね張りする。  
(注)補強用平ラスは、必ず力骨付きラスを張った後に張り付ける。

6)アルミサッシ回り

電解腐食を避けるため、ラスがアルミサッシと接触しないように10mm以内で離して留め付ける。

3.2 (1) 6)の<解説>を参照のこと。

7)防水シートの確認

ラス工事完了後に防水シートの損傷が確認された場合は、防水テープを使用するか、防水紙を重ね張りして補修する。

### 3. 3軽量モルタルの塗付け、補強用ネットの伏込み

#### 1) 諸工事完了の確認

- ・外壁に衝撃を与える諸工事(内装、巾木、棚取付け等)が完了していることを監督員に確認する。

#### 2) 周辺の養生

- ・周辺部を養生テープ、養生用マスキングテープ等を用いて、養生する。
- ・軽量モルタルの塗厚が確保されることを留意して、サッシ、軒、ケラバ、水切などを養生する。

#### 3) 補強用ネットの裁断

- ・軽量モルタル塗付けに先立ち、伏せ込みやすいよう補強用ネットを裁断する。

#### 4) 練り混ぜ

- ・モルタルミキサーを使用し、標準水量の水を徐々に加えて十分練り混ぜる。
- ・練り混ぜ時間は、製造業者の指定時間とする。
- ・練り混ぜ後、製造業者の指定時間以内に使用する。

(注)

- ・練り混ぜには水道水等の清水を使用する。
- ・指定材料以外のものは練り混ぜない。

#### 5) 塗付け、補強用ネットの伏込み

##### イ) 下塗り

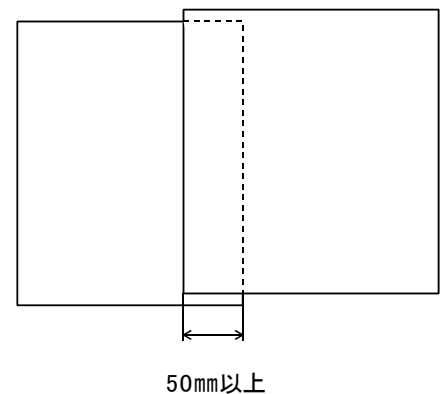
- ・材料がラスによくからまるようコテ圧を加えながら、ラスが隠れる塗厚で下塗りする。

##### ロ) 上塗り及び全面補強用ネット伏込み

- ・軽量モルタル上塗り後、ムラを取り、直ちに全面に張り残しがないように、裁断した補強用ネットを伏せ込み、補強用ネットの浮きがなくなるように木ゴテ又はスチロールコテなどでノロを浮かせながらなじませ、金コテで通す。
- ・下塗りが十分乾燥してから上塗りする場合は、水湿しを行ってから上塗りにかかる。
- ・補強用ネットの継ぎ目は縦横とも50mm以上重ねる。
- ・補強用ネットの伏込みは、必ず軽量モルタル塗付け後直ちに行う。特に、補強用ネットの重ね部分は伏込みが不足しやすい為注意する。
- ・入隅部分は補強用ネットを200mm以上回して伏せ込む。
- ・出隅部分は補強用ネットを①回し張りか、②突き付け張りのうちいずれかを選択する。

##### ① 回し張り

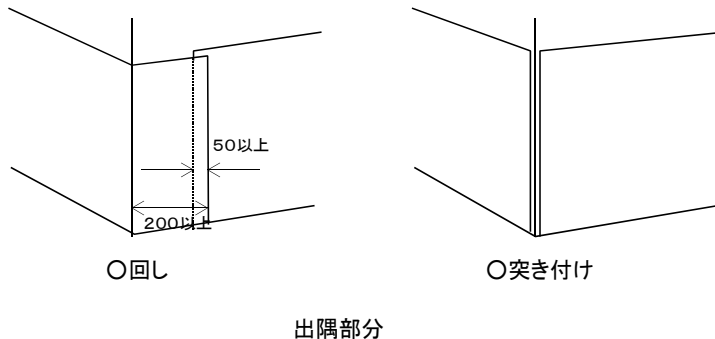
- ・200mm以上回して張る。出隅でコーナー定木を使用する場合は、特にコーナー部分でネットの浮きがないよう、かつネットに傷が付かないように丁寧に伏せ込む。



## ②突き付け張り

- ・ネットは端部まで張る。概ねコーナーから5mm程度以内。

出隅部分は壁面の左右両端より伏せ込みはじめて途中で50mm以上重ねて継ぐように伏せ込むと、端まで伏せ込みやすくなる。



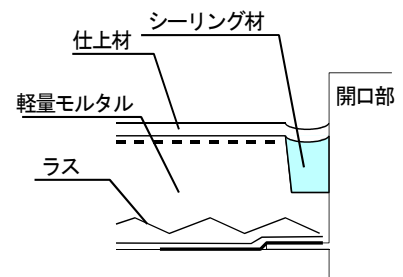
- ・仕上げ材の種類により、補強用ネットの網目や影などが、仕上がりに影響する場合がありますので、必要に応じシゴキ材で補修する。
- ・補強用ネットは軽量モルタル中に十分伏せ込まれていないと、ひび割れ抑制効果が発揮できない。軽量モルタルが締まってから伏せ込むと、補強用ネットの伏せ込みが不足するので、補強用ネットの伏せ込みは、必ず軽量モルタル塗付け後、直ちに行う。特に、補強用ネットの重ね部分は注意する。
- ・シーリング目地を入れる場合は目地幅を離して補強用ネットを伏せ込む。

### <解説>

- ・下塗り乾燥後、上塗りする場合は、下塗りの締まり具合を見計らって、表面に櫛目やホウキ目を入れて粗面としておくと、引っかかり効果と接着面積が増える効果により上塗りとの接着がよくなる。

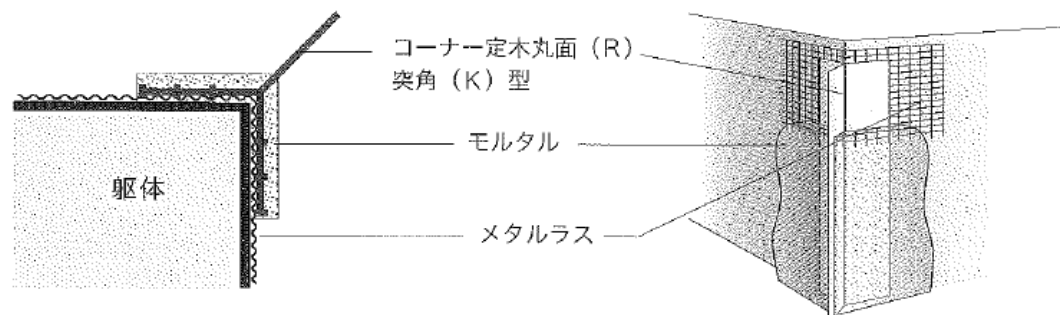
## 6)シーリング目地

- ・サッシ回り等にシーリング目地をとる場合は、目地サイズを幅10mm×深さ10mm程度とする。
- ・目地棒を入れ、軽量モルタル硬化後、脱型するか、軽量モルタル上塗りが締まってから、目地ゴテで押し目地を入れる。



### 7) 出隅コーナー定木の取付け

- ・出隅部分にコーナー定木を使用する場合は、軽量モルタルの下塗り前又は下塗り時に行う。
- ・コーナー部分に水系を張り、コーナー部全体に軽量モルタルを塗り、軽量モルタルの塗厚を考慮してコーナー定木の位置を決め、軽量モルタルで固定する。
- ・軽量モルタルの上塗りには、コーナー定木を固定した軽量モルタルが硬化後行う。



#### <解説>

軽量モルタル上塗り時に、コーナー定木が固定されていない場合、コーナー定木が動き、軽量モルタルーコーナー定木間の肌別れや、コーナー定木の足部分端部のひび割れ発生などの不具合が発生する原因となる。必ず、コーナー部分の一部を塗るのではなく、コーナー部分全体に軽量モルタルを塗って、コーナー定木を固定し、硬化後、軽量モルタルを上塗りする。

### 8) 塗り厚の確保

軽量モルタルの塗厚は、次の手順で指定厚みを確保する。

#### ①塗付け前

塗厚を考慮して、サッシや、軒、ケラバ、水切などを養生する。

出隅コーナー定木は塗厚を考慮して、水系を使用し、位置決めする。

#### ②塗付け時

塗厚を確認しながら、塗り付ける。

#### ③確認検査

下塗り完了後、上塗り完了後、それぞれ塗り厚を測定し、合計塗厚が不足した場合は塗り足す。

#### <解説>

塗り厚測定には、市販の塗り厚測定器又は、スケールなどを用いる。



### 3. 4サッシ回り、貫通部回り等のシーリング処理(仕様により省略)

軽量モルタル乾燥後、サッシ回り、貫通部回り、及びその他必要箇所にシーリング処理をする。

### 3. 5後片付け・清掃

- ・軽量モルタルが残らないように清掃する。
- ・全ての養生材を剥がした後、軽量モルタルがついていないか確認する。特に屋根は注意する。
- ・道具などの洗いは必ず、指定された場所で行い、U字溝等では絶対に行わない。
- ・作業中に発生したゴミ(軽量モルタルの袋、養生材等)の処理は監督員の指示に従う。

### 3. 6仕上げ材施工までの養生期間

- ・軽量モルタル上塗り後通常期10日以上、冬期14日以上経過後、仕上げ材を施工する。
- ・乾燥の遅れや、降雨により濡れ色となっている場合は、乾燥したのを確認後、仕上げ材を施工する。

### 4. 左官工事工程検査

- ・チェックシートに基づき、左官工事工程検査を行い、記録する。不具合があれば、修正し、是正処置の内容も記録する。

### 5. 注意事項

「施工上の注意事項」及び「取扱い時の安全対策(概要)」を確認の上、安全対策には十分留意する。

#### 5. 1施工上の注意事項

- ◎強風や直射日光等による急激な乾燥を防止するため、シート養生等適切な措置をとる。
- ◎施工時気温が5℃以下の場合及び硬化までに気温が5℃以下となることが予想される場合は、施工を中止するか、適切な保温、採暖を行う。
- ◎悪天候(降雨、降雪等)、またその恐れがある場合は施工を避ける。

#### 5. 2取扱い時の安全対策(概要)

##### 1) 使用上の注意

- ◎取扱い時は必ず保護具(保護手袋・保護眼鏡・保護マスク等)を着用する。
- ◎強風時の、混練り時等に粉塵が周囲に飛散しないよう注意する。
- ◎取扱いは換気の良い場所にて行う。
- ◎取扱い後はうがい及び手洗いを十分に行う。
- ◎使用後の機具類は早めに水洗いする。

##### 2) 応急処置

- ◎目に入った場合、直ちに多量の水で15分以上洗眼し、医師の手当てを受ける。
- ◎皮膚に付着した場合、直ちに水で良く洗い流し、必要に応じて医師の診断を受ける。
- ◎誤飲した場合、多量の水を飲ませ吐かせた後、直ちに医師の診断を受ける。
- ◎吸引した場合、速やかに新鮮な空気のある場所に移動し、水又は温水でうがいを行って安静にし、必要に応じて医師の診断を受ける。

### 3) 保管上の注意

- ◎雨露のかからない湿気の少ないところに保管し、地面に直接放置しない。
- ◎製品の製造年月日を確認し、有効期間が切れた製品は使用しない。また、開封した製品はできるだけ早く使用する。

### 4) 輸送上の注意

- ◎袋の損傷による内容物の漏れが無いことを確認する。
- ◎転倒、落下、損傷が無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
- ◎湿気、水濡れに注意する。

### 5) 廃棄上の注意

- ◎都道府県条例に基づき処理するか、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

### 6) 漏出時の注意

- ◎飛散したものは掃除機で吸い取るか、スコップ、ほうき等で集め、袋に回収する。
- ◎排水は中和、希釈処理などにより、河川等に直接流出しないよう対策を取る。

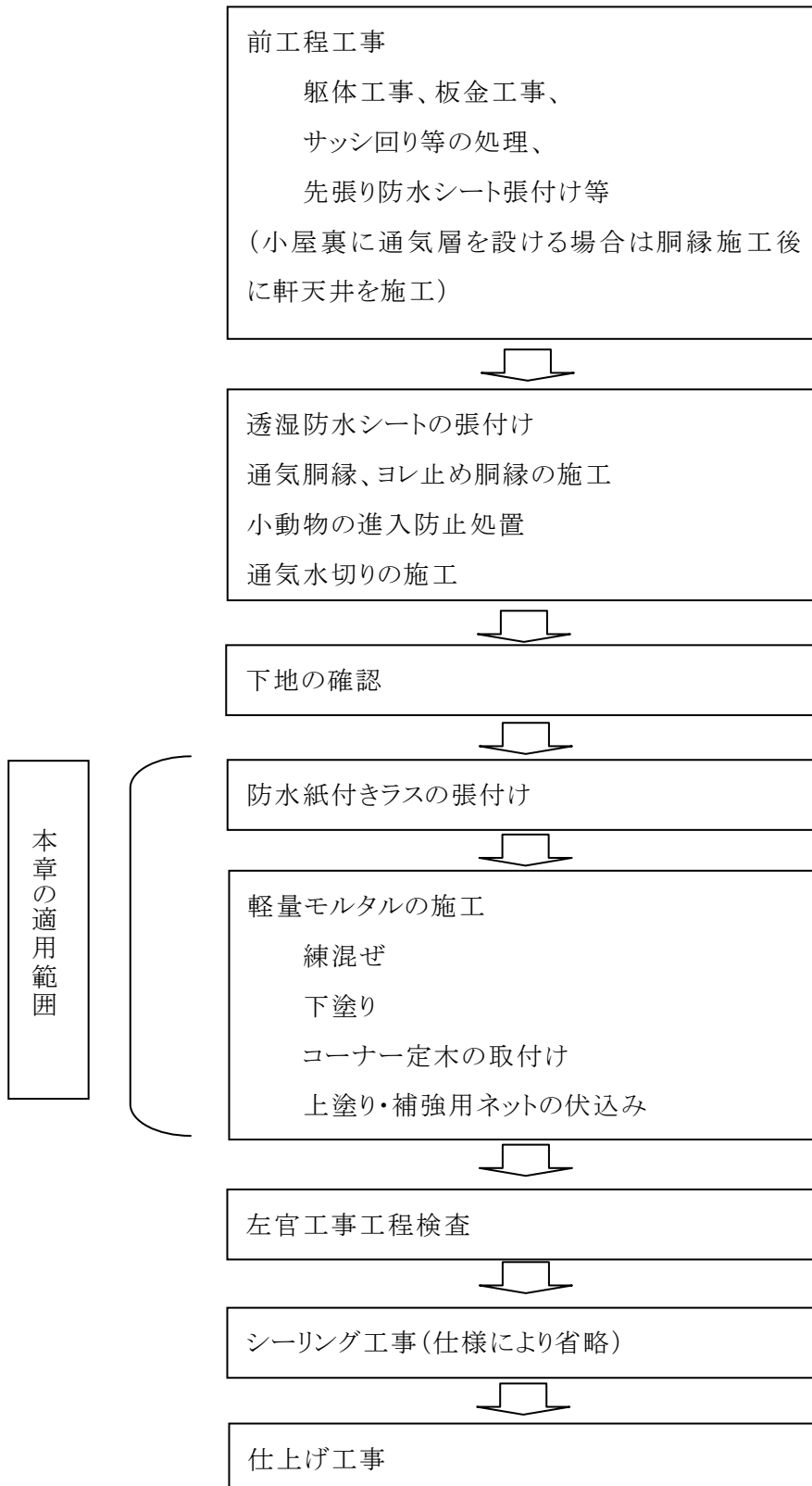


## 第3章 単層下地通気構法

### 1. 施工のフローチャートと本章の適用範囲

施工のフローチャートと本章の適用範囲を下記に示す。

#### 単層下地通気構法



## 2. 材料

### 2.1 法令

防火構造等の指定がある場合は、各使用材料・工法が認定条件に適合していることを確認する。

### 2.2 使用材料詳細

本施工要領書の適用範囲に使用する材料

<p><b>軽量モルタル</b></p> <p>JASS 15 M-102 (ラス系下地用既調合軽量セメントモルタルの品質規準)適合品。 ただし、曲げ強さ及び吸水量は、以下の通気構法の条件に適合するもの。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>通気構法の条件</th> <th>JASS 15 M-102の条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>曲げ強さ</td> <td>25kgf/cm<sup>2</sup>(2.45N/mm<sup>2</sup>)以上</td> <td>2.0N/mm<sup>2</sup>以上</td> </tr> <tr> <td>吸水量</td> <td>36g以下</td> <td>40g以下</td> </tr> </tbody> </table>			通気構法の条件	JASS 15 M-102の条件	曲げ強さ	25kgf/cm <sup>2</sup> (2.45N/mm <sup>2</sup> )以上	2.0N/mm <sup>2</sup> 以上	吸水量	36g以下	40g以下
	通気構法の条件	JASS 15 M-102の条件								
曲げ強さ	25kgf/cm <sup>2</sup> (2.45N/mm <sup>2</sup> )以上	2.0N/mm <sup>2</sup> 以上								
吸水量	36g以下	40g以下								
<p><b>ラス及び留付け用ステーブル</b></p> <p><b>ラス</b> 使用するメタルラスの品質は、JASS 15 M-101 ラス系下地用鋼製金網の品質規準に適合する防錆処理されたラスで質量 700g/m<sup>2</sup>以上の通気構法用防水紙付きリブラス又は同等以上の防水紙付きラス。</p> <p><b>補強用平ラス</b> JASS 15 M-101 ラス系下地用鋼製金網の品質規準適合品、質量450g/m<sup>2</sup>以上。出隅入隅部分 工法1で使用する。</p> <p><b>留付け用ステーブル</b> JASS 15 M-105 ラス系下地用ステーブルの品質規準及びJIS A 5556(工業用ステーブル)に適合するT線以上の線径、足長25mm以上の防錆処理品又はステンレス品とする。</p> <p><b>&lt;解説&gt;</b> ステーブルは、ラス及びモルタルを下地に留め付けるために重要である。ステーブルは、線径や足の長さにより強度及び変形状が異なるので、躯体および下地材の変形に対して追従できる長さで破断を防ぐ強度が必要である。線径と足の長さが地震時のはく落を防ぐ上で重要な部分となる。</p>										
<p><b>補強用ネット</b></p> <p><b>耐アルカリ性ガラス繊維ネット</b> 目開き 4~10mm 質量 130g/m<sup>2</sup>以上 ジルコニア分16%以上の補強用ネットを推奨</p> <p><b>&lt;解説&gt;</b> 耐アルカリ性ガラス繊維ネットを軽量モルタル表面に伏せこむことにより、<u>ひび割れを効果的に抑制</u>することができる。 耐アルカリ性ガラス繊維ネットとして市販されている製品には、ジルコニアを混入し、ガラス繊維自体の耐アルカリ性を確保したものと、ガラス繊維の表面に耐アルカリ処理したものがある。 耐久性を考慮し、日本GRC工業会規格(ガラス繊維補強セメント板(GRC板)の材料規格)に準じた、<u>ジルコニア分16%以上の耐アルカリ性ガラス繊維ネットを推奨</u>する。</p>										

その他材料

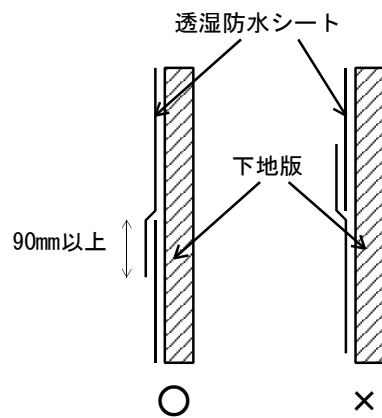
<p><b>先張り防水シート(前工程工事)</b></p> <p>アスファルトルーフィング工業会規格「改質アスファルトルーフィング下葺き材ARK-04s」と同等以上の防水性能を有するものを推奨する。</p>
<p><b>防水テープ(前工程工事)</b></p> <p>住宅外装テクニカルセンター規格 JTC S-003に適合した両面粘着防水テープ</p>
<p><b>透湿防水シート(前工程工事)</b></p> <p>JIS A 6111 適合品</p>
<p><b>胴縁(前工程工事)</b></p> <p>幅 45mm及び90mm 厚さ 15mm以上</p> <p>防蟻・防腐剤による透湿防水シートの防水性低下対策</p> <p>① 防蟻・防腐措置を要する場合、当該通気胴縁と同程度の防蟻・防腐性を有するとされている無処理の樹種の胴縁(※1)を使用する。</p> <p>② 防蟻・防腐処理済み通気胴縁を使用する場合の対策</p> <p>保管は、屋内又は、屋外の場合は、シート等で覆い、出来る限り濡らさない。</p> <p>工事中、雨水にさらされぬよう、ラス、左官工事を速やかに行うか、適宜養生をする。</p> <p>※ 1:ひのき・ひば等を示す。詳細は住宅金融支援機構監修住宅金融普及協会発行の木造住宅工事仕様書 4.3.2 イに記載されたものを用いる。</p> <p>&lt;解説&gt;</p> <p>防蟻・防腐処理された通気胴縁を使用した場合、当該胴縁が外壁工事途中で雨水にさらされると、防蟻・防腐剤が溶け出して、透湿防水シートの防水性を低下させ、雨水が透湿防水シート裏面側にまわる恐れがあることが判明しており、これに対する対策として当面、①、②の対応をとる。</p>
<p><b>シーリング</b></p> <p>JIS A 5758(建築用シーリング材)適合品で、JISの耐久性による区分の8020の品質又はこれと同等以上の耐久性を有するものとし、仕上塗材製造業者に確認する。</p> <p>&lt;解説&gt;</p> <p>シーリング材の選択は、仕上げ材との相性があるため、仕上塗材製造業者に確認することとした。一般的には1成分形変成シリコーン系(略号:MS-1)、1成分形ポリサルファイド系(略号:PS-1)、1成分形ポリウレタン系(略号:PU-1)が使われている。</p>

### 3. 施工方法

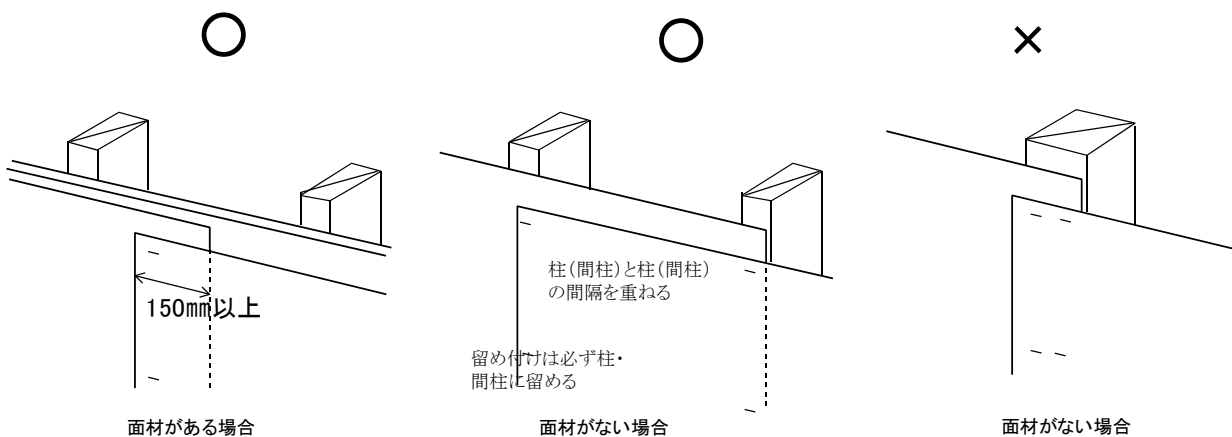
#### 3.1 透湿防水シートの張付け(前工程工事)

##### 1) 張り方向、配置、留付け間隔

- ・透湿防水シートは横張りとし、下段から上段へ水平に張り付ける。
- ・たるみ、しわのないよう十分伸ばしながら、透湿防水シートを傷つけないようタッカーを用いて上から打ち留める。タッカーはガンタッカー又は電動タッカーを使用し、ハンマータッカー及びエアータッカーは使用しない。
- ・透湿防水シートの上下の重ねは、重ね代を90mm以上とし、上にくる透湿防水シートが外側になるように張り付ける。
- ・平面部(一般部)の左右の継ぎ重ね代は、面材下地がある場合 150mm以上とし、面材下地のない場合は、柱(間柱)と柱(間柱)の間隔を重ね、留付けは必ず柱・間柱に留める。



上下の重ね

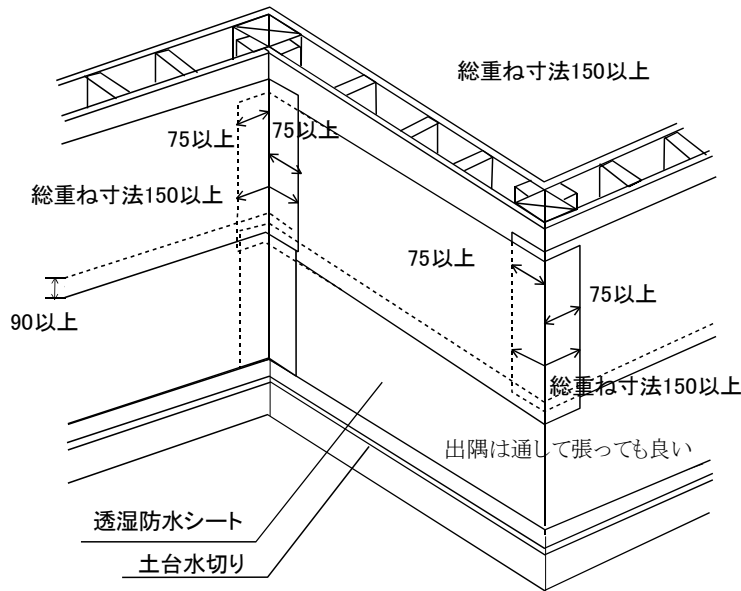


左右の重ね

## 2) 出隅・入隅

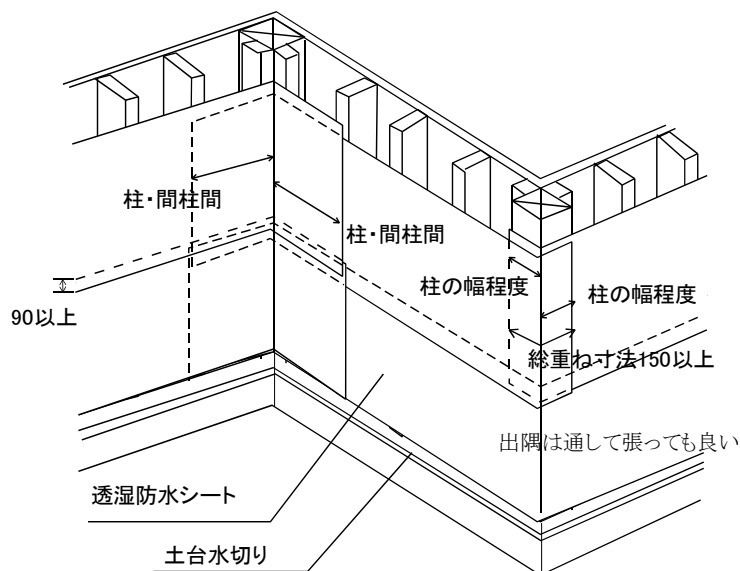
### ① 面材下地がある場合

- ・入隅は両側それぞれ 75 mm以上 (総重ね 150 mm以上) 重ねて張る。
- ・出隅は継ぎ目を設けなくて通して張るか、両側それぞれ 75 mm以上 (総重ね 150 mm以上) 重ねて張る。



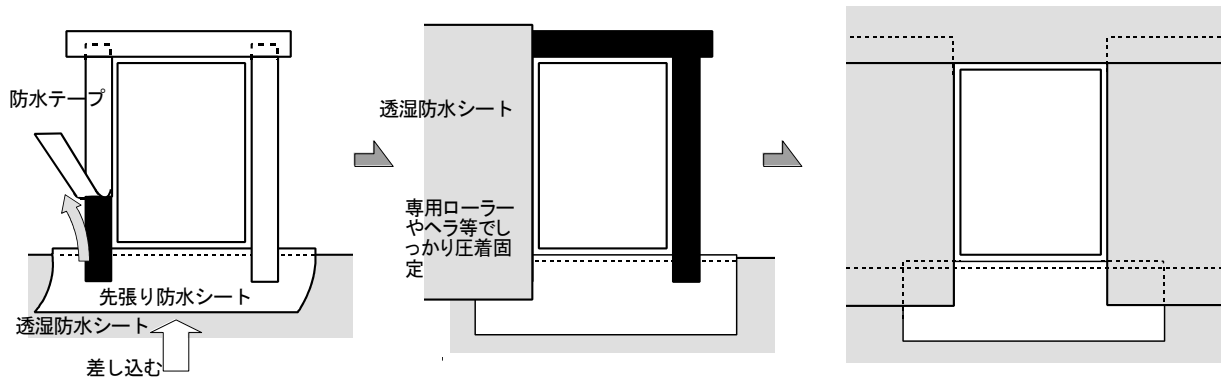
### ② 面材下地がない場合

- ・入隅は両隣の柱間柱まで重ねて張る。
- ・出隅は継ぎ目を設けなくて、通して張るか、両側それぞれ柱の幅程度 (総重ね150mm以上) 重ねて張る。



### 3) サッシ周囲の処理

- ・両面粘着防水テープの剥離紙を透湿防水シートを張る直前に剥がす。  
先張り防水シートの内側に透湿防水シートを差し込む。
- ・防水テープの接着面は専用ローラーやヘラ等でしっかり圧着固定する。

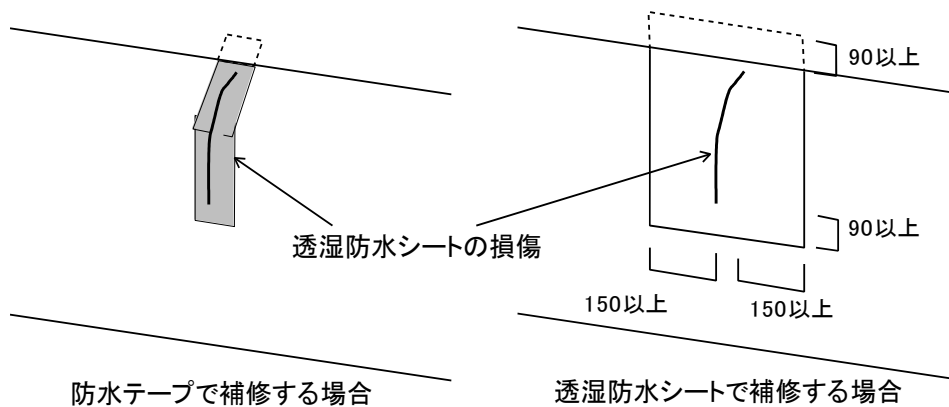


### 4) 先張り防水シート取合い部の納まり

- ・軒天等、先張り防水シートを使用している部分には、先張り防水シート内側に透湿防水シートを90mm以上差し込む。

### 5) 透湿防水シートが損傷した場合の処理

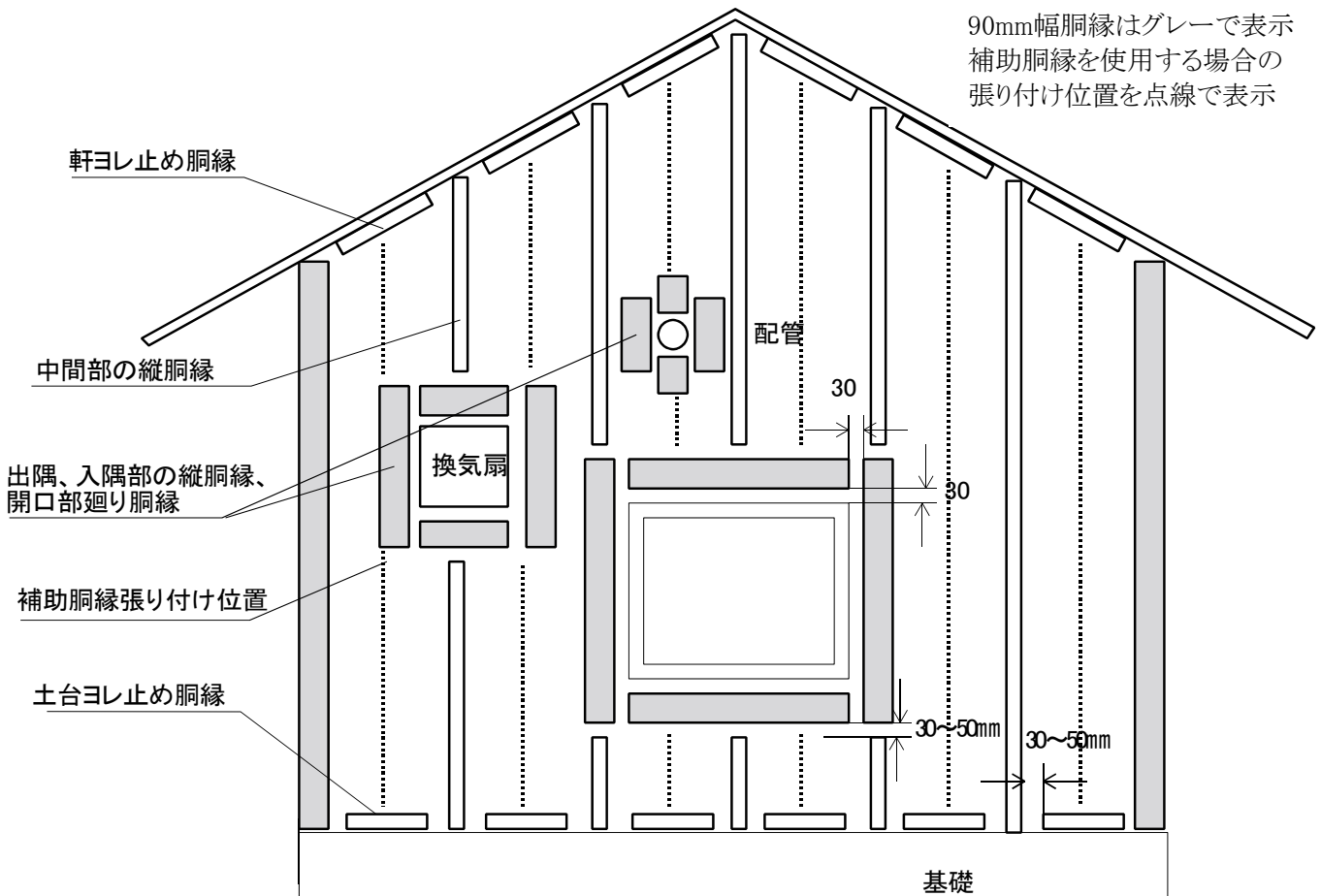
- ・万一、透湿防水シートが損傷した場合は、防水テープを使用するか、透湿防水シートを重ね張りし補修する。



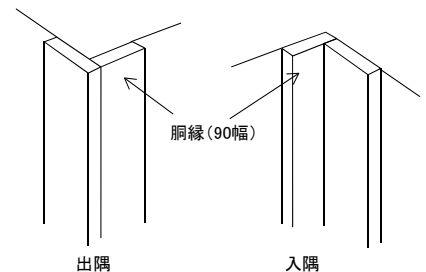
### 1) 縦胴縁、開口部回りの胴縁

①一般部分は幅45mm、入隅、出隅、開口部回りは、幅90mmの胴縁を使用し、くぎ又はねじで取り付ける。

縦胴縁を455mm以下(メーターモジュールの場合は500mm以下)の間隔で、柱、間柱、たて桝上に固定する。開口部回り部分は、通気できるように隙間をあけて留め付ける。



②出入隅部の胴縁は90mm幅を使用し、勝ち負けを決め角まで下地があるように施工する。



### 2) ヨレ止め胴縁

- ・ヨレ止め胴縁は下屋上、軒、出窓庇、霧除け庇、土台、開口部回りなどに取り付ける。
- ・縦胴縁と当たる部分は、30mm～50mm程度(開口部回り30mm程度)の隙間を取り、通気出来るようにする。

#### <解説>

ヨレ止め胴縁はラスのヨレ止め及びファイアーストップとして、モルタルの均一な塗厚・縁切れを防止する為、必要となる。

### 3) 後付け付属物

- ・後付け付属物(物干金物等)を固定できる様に、取付け部分にも必ず胴縁を入れる。

#### 4) 通気水切りの取付け

- ・通気水切りは縦胴縁の上から取り付ける。
- ・胴縁上に下端起こしを使用する方法もある。

#### 5) 通気層への小動物の侵入防止対策

- ・通気層へコウモリやハチ等の侵入を防ぐため、土台水切り上部、下屋との取合い部分に 防虫部材の使用などの対策をとる。



### 3.3 防水紙付きラスの張付け

防水紙付きリブラスの施工方法の一例を示す。

#### 1) 補助胴縁の取付け

補助胴縁を使用する場合は、通気縦胴縁の中間位置の透湿防水シート上に取り付ける。

#### <解説>

補助胴縁は軽量モルタル塗付け時の、ラスのたわみを押さえ、塗厚及び通気層厚を一定にするために使用する。

#### 2) 土台周り、下屋取合い外壁部分等の処理

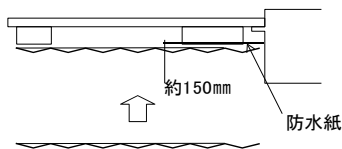
土台回り(1段目)の全周及び下屋取合い外壁部分等には、ラスを張る前に、幅150mm程度にカットした防水シートを先に張り付ける。



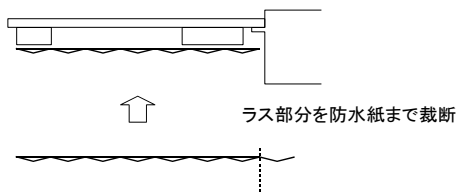
#### 3) 開口部回り等の処理

開口部回り左側、上側など、防水紙付きラスの端部の防水紙がない部分に接する箇所の施工方法

施工法1. 幅150mm程度の防水紙をあらかじめ張る(右写真)

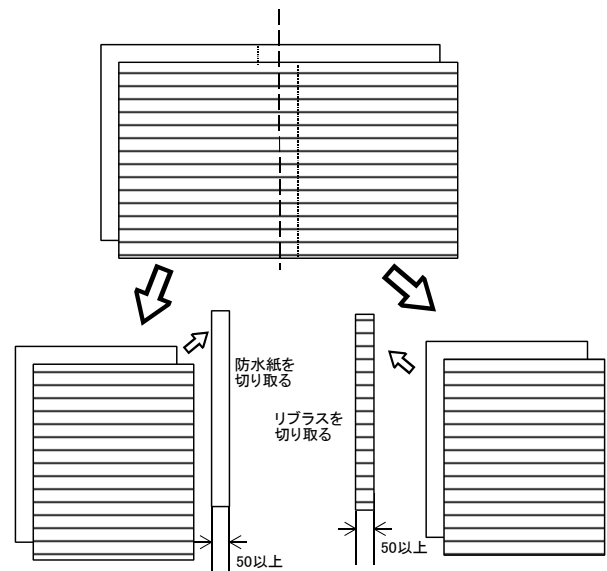


施工法2. 紙付きラスの防水紙の幅に合わせラス部分を裁断



#### 4) 防水紙付きラスの切断方法

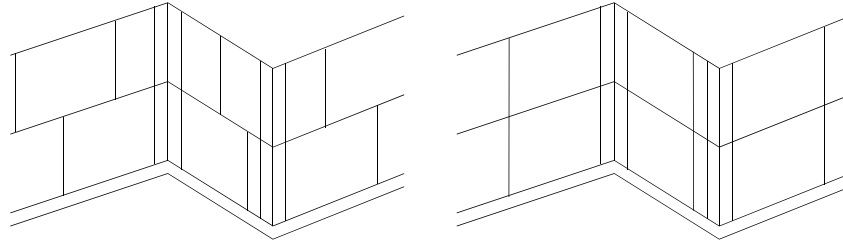
切断した防水紙付きラスを使用する場合は、切断面より防水紙又は、ラス部分を約50mm以上切り取る。



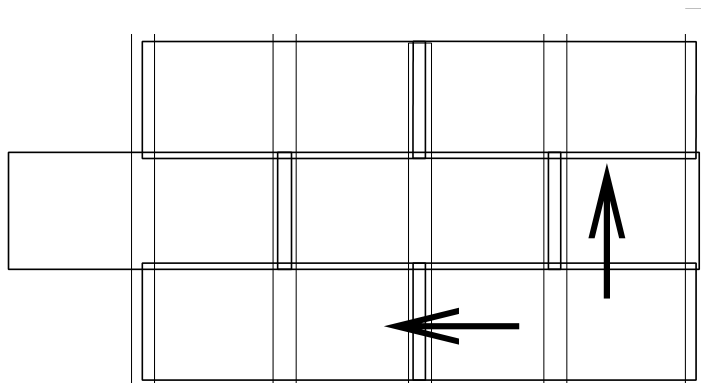
5) 防水紙付きラスの張り方向、配置

①平面部分

- ・横張りとし、千鳥に配置する。
- ・左右の継ぎ目は必ず胴縁の上で行う。
- ・出隅又は入隅部から張り始め、原則として右から左に、下から、上に貼る。
- ・上下、左右とも継ぎ目は、ラス部分、防水紙部分いずれも30mm以上重ねる。
- ・出隅入隅は突き付け張りとする。



○ ラスは平面部分横張りで千鳥に配置~~x~~

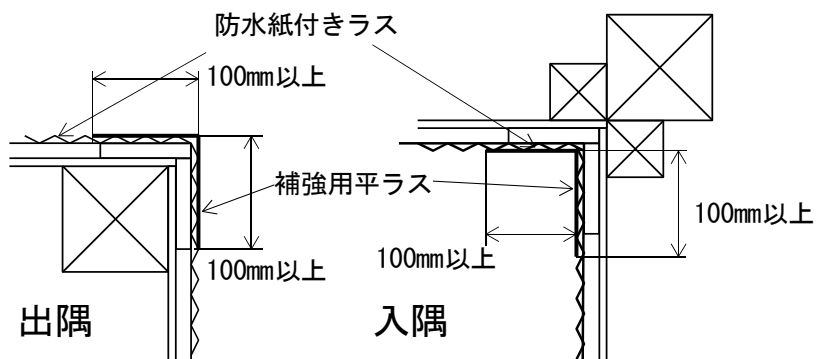


原則として右から左に、下から、上に貼る。

## ②出隅入隅部分

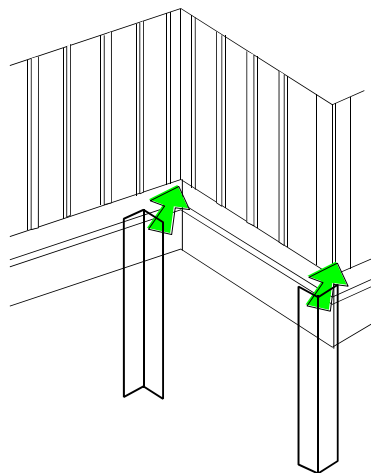
### 工法1 補強用平ラスによる補強張り

- ・出隅部、入隅部の防水紙の重ねは、平面部を張る際に防水紙ラスの防水紙を伸ばして50mm以上重ねるか、平面部分のラスを張る前に、防水紙を左右いずれも50mm以上重ねるように、張り付けておく。
- ・平面部分のラスを突き付けで張った後、200mm幅程度以上の補強用平ラスを中央部から90°に折り曲げ(片面100mm程度以上)、上から張り付ける。



### 工法2 長手方向に裁断した紙付きラスによる補強張り

- ・平面部分を張る前に、出隅・入隅部分に長手方向225mm幅程度に裁断した防水紙付きラスを縦折りし、張り付ける。

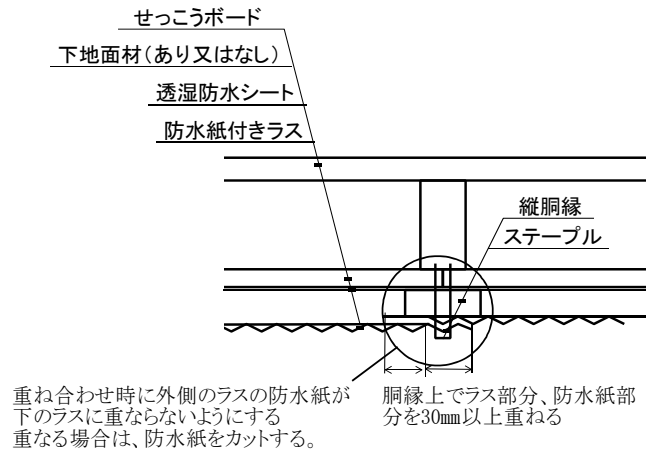


- ・出隅、入隅部分に縦横のリブが重なる部分は、横リブの端部がはねて厚くならないように、ステーブルで端部も固定する。

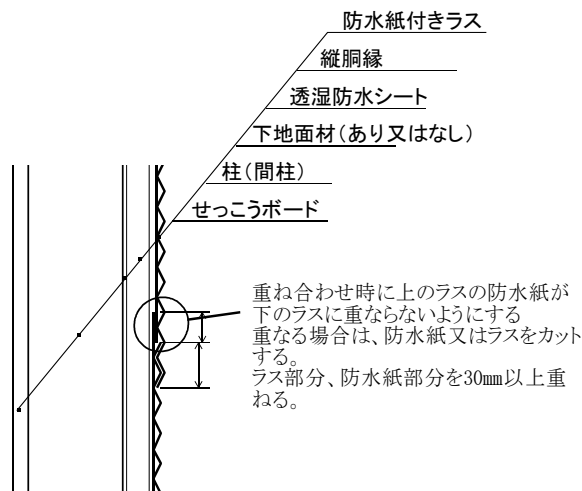
6)ラス継ぎ目の重ね方

- ・横方向は胴縁上で重ねる。
- ・重ね合わせ部分は外側のラスの防水紙が内側のラスに重ならないようにする。
- ・重なる場合は外側のラスの防水紙をカットし、ラス部分、防水紙部分いずれも30mm以上重ねる。

①横方向の重ね方

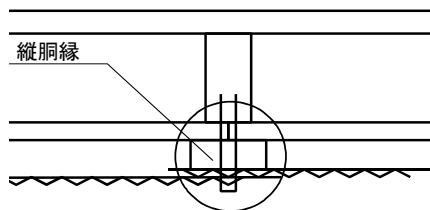


②縦方向の重ね方



× 悪い例

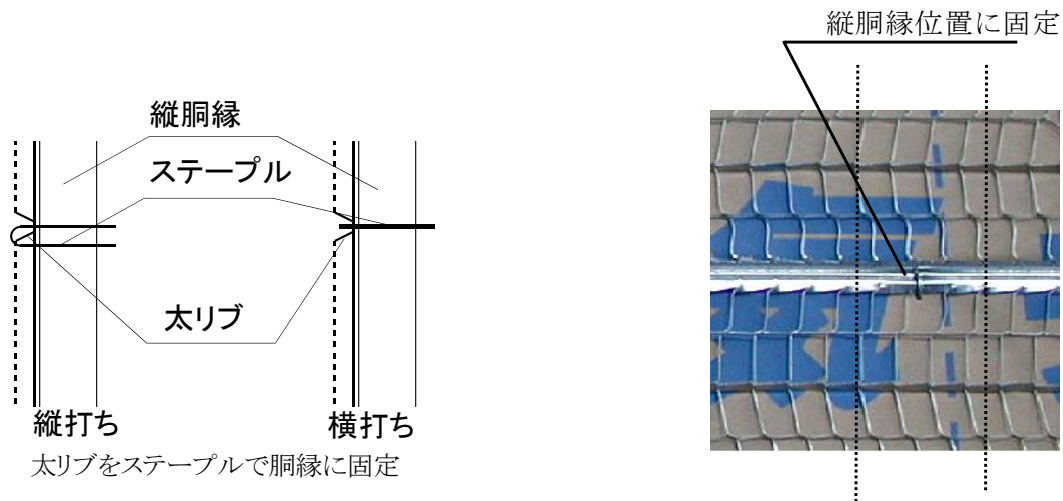
防水紙をカットしていないので、ラス同士が重なっておらず、縁が切れてモルタルのひび割れ要因となる。



× ラス間に防水紙あり、ラス同士が重なっていない。

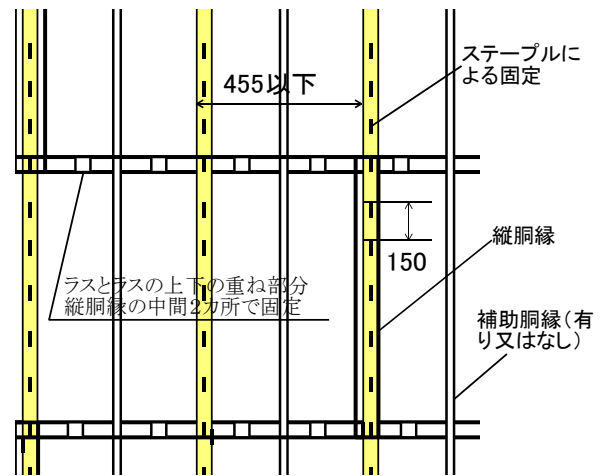
### 7) ラスの固定方法

- ・エアータッカーを使用し、指定のステーブルでラスの太リブ部分を胴縁に固定する。



### 8) ステーブルの固定位置

- ・縦胴縁部上かつ、柱、間柱、たて枠上にステーブルで横間隔455mm以下(メーカーモジュールの場合は500mm以下)、縦間隔 150mm以下でラスを、固定する。
- ・補助胴縁には止めない。
- ・開口部回り、土台回り、軒下部分などに 150mm間隔で固定する。
- ・胴縁上でラスがはねる部分があればはねが止まるように固定する。
- ・ラスとラスの上下の重ね部分は縦胴縁の 中間2カ所で結束線を使用するか、又は ハッカーによりラス同士を振り固定する。



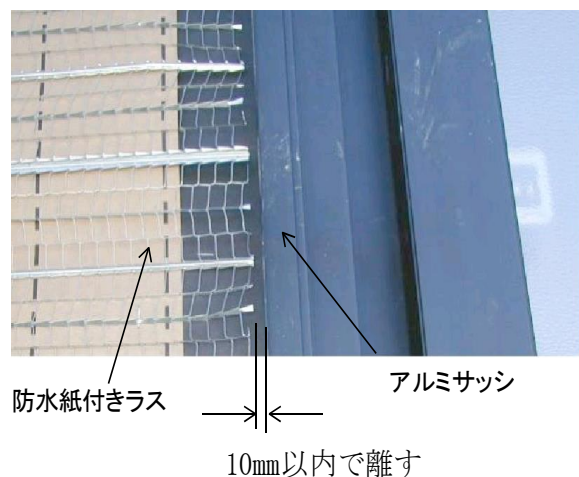
### 9) アルミサッシ回り

- ・電解腐食を避けるため、ラスがアルミサッシと接触しないように10mm以内で離して留め付ける。

#### <解説>

イオン化傾向の異なる金属が接触すると、電位差が生じて電流が流れ、イオン化傾向の大きな金属が腐食する。この現象を電解腐食という。

ラスがアルミサッシに接触すると電解腐食により、アルミが腐食するため、ラス施工時にはラスをアルミサッシに接触させてはならない。



### 3.4 軽量モルタルの塗付け、補強用ネットの伏込み

#### 1) 諸工事完了の確認

外壁に衝撃を与える諸工事(内装、巾木、棚取付け等)が完了していることを監督員に確認する。

#### 2) 周辺の養生

周辺部を養生テープ、養生用マスキングテープ等を用いて、養生する。

軽量モルタルの塗厚が確保されることを留意して、サッシ、軒、ケラバ、水切などを養生する。

#### 3) 補強用ネットの裁断

軽量モルタル塗付けに先立ち、伏込みやすいよう補強用ネットを裁断する。

#### 4) 練り混ぜ

・モルタルミキサーを使用し、標準水量の水を徐々に加えて十分練り混ぜる。

・練り混ぜ時間は、製造業者の指定時間とする。

・練り混ぜ後、製造業者の指定時間以内に使用する。

(注)

○練り混ぜには水道水等の清水を使用する。

○指定材料以外のものは練り混ぜない。

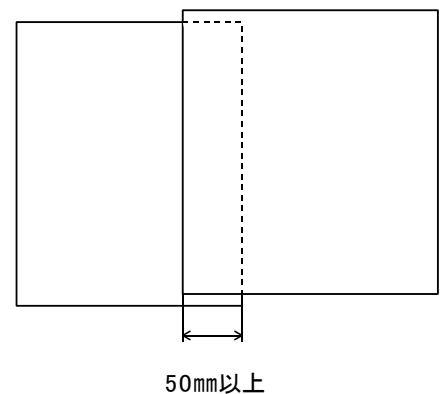
#### 5) 塗付け、補強用ネットの伏込み

##### イ) 下塗り

金ゴテでラスが隠れる塗り厚で下塗りする。下塗りはコテで軽くなできるように塗り付ける。

#### <解説>

単層通気構法は下地材を使用しないため、強く押しつけて塗ると、胴縁部分以外に、モルタルが余分に付着し、塗厚が一定と  
ならないために、亀裂の原因となる。ただし、ラスの重ね部分はラスにモルタルが十分充填する様に注意する。



##### ロ) 上塗り及び全面補強用ネット伏込み

- ・軽量モルタル上塗り後、ムラを取り、直ちに全面に張り残しがないように、裁断した補強用ネットを伏せ込み、補強用ネットの浮きがなくなるように木ゴテ又はスチロールコテなどでノロを浮かせながらなじませ、金コテで通す。
- ・下塗りが十分乾燥してから上塗りする場合は、水湿しを行ってから上塗りにかかる。
- ・補強用ネットの継ぎ目は縦横とも50mm以上重ねる。
- ・補強用ネットの伏込みは、必ず軽量モルタル塗付け後直ちに行う。特に、補強用ネットの重ね部分は伏込みが不足しやすい為注意する。
- ・入隅部分は補強用ネットを200mm以上回して伏せ込む。

・出隅部分は補強用ネットを①回し張りか、②突き付け張りのうちいずれかを選択する。

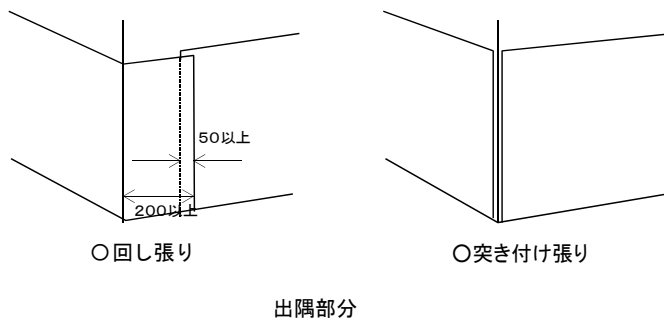
①回し張り

200mm以上回して張る。出隅でコーナー一定木を使用する場合は、特にコーナー部分でネットの浮きがないよう、かつネットに傷が付かないように丁寧に伏せ込む。

②突き付け張り

ネットは端部まで張る。概ねコーナーから5mm程度以内。

出隅部分は壁面の左右両端より伏せ込みはじめて途中で50mm以上重ねて継ぐように伏せ込むと、端まで伏せ込みやすくなる。



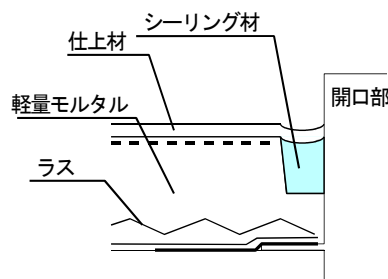
- ・仕上げ材の種類により、補強用ネットの網目や影などが、仕上がりに影響する場合があるので、必要に応じシゴキ材で補修する。
- ・補強用ネットは軽量モルタル中に十分伏せ込まれていないと、ひび割れ抑制効果が発揮できない。軽量モルタルが締まってから伏せ込むと、補強用ネットの伏せ込みが不足するので、
- ・補強用ネットの伏せ込みは、必ず軽量モルタル塗付け後直ちに行う。特に、補強用ネットの重ね部分は伏せ込みが不足しやすい為注意する。
- ・シーリング目地を入れる場合は目地幅を離して補強用ネットを伏せ込む。

<解説>

下塗り乾燥後、上塗りする場合は、下塗りの締まり具合を見計らって、表面に櫛目やホウキ目を入れて粗面としておくと、引っかかり効果と接着面積が増える効果により上塗りとの接着がよくなる。

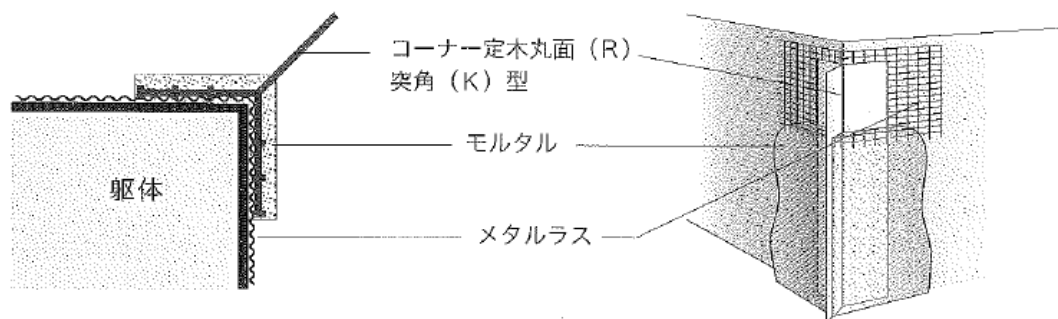
6)シーリング目地

- ・サッシ回り等にシーリング目地をとる場合は、目地サイズを幅10mm×深さ10mm程度とする。
- ・目地棒を入れ、軽量モルタル硬化後、脱型するか、軽量モルタル上塗りが締まってから、目地ゴテで押し目地を入れる。



### 7) 出隅コーナー一定木の取付け

- ・出隅部分にコーナー一定木を使用する場合は、軽量モルタルの下塗り前又は下塗り時に行う。
- ・コーナー部分に水糸を張り、コーナー部全体に軽量モルタルを塗り、軽量モルタルの塗厚を考慮してコーナー一定木の位置を決め、軽量モルタルで固定する。
- ・軽量モルタルの上塗りには、コーナー一定木を固定した軽量モルタルが硬化後行う。



#### <解説>

軽量モルタル上塗り時に、コーナー一定木が固定されていない場合、コーナー一定木が動き、軽量モルタル-コーナー一定木間の肌別れや、コーナー一定木の足部分端部のひび割れ発生などの不具合が発生する原因となる。必ず、コーナー部分の一部を塗るのではなく、コーナー部分全体に軽量モルタルを塗って、コーナー一定木を固定し、硬化後、軽量モルタルを上塗りする。

### 8) 塗り厚の確保

軽量モルタルの塗厚は、次の手順で指定厚みを確保する。

#### ①塗付け前

塗厚を考慮して、サッシや、軒、ケラバ、水切などを養生する。

出隅コーナー一定木は塗厚を考慮して、水糸を使用し、位置決めする。

#### ②塗付け時

塗厚を確認しながら、塗り付ける。

#### ③確認検査

下塗り完了後、上塗り完了後、それぞれ塗り厚を測定し、合計塗厚が不足した場合は塗り足す。それぞれ、通気胴縁上で測定する。

#### <解説>

塗り厚測定には、市販の塗り厚測定器又は、スケールなどを用いる。





### 3. 5 サッシ回り、貫通部回り等のシーリング処理(仕様により省略)

軽量モルタル乾燥後、サッシ回り、貫通部回り、及びその他必要箇所にシーリング処理をする。

### 3. 6 後片付け・清掃

- ・軽量モルタルが残らないように清掃する。
- ・全ての養生材を剥がした後、軽量モルタルがついていないか確認する。特に屋根は注意する。
- ・道具などの洗いは必ず、指定された場所で行い、U字溝等では絶対に行わない。
- ・作業中に発生したゴミ(軽量モルタルの袋、養生材等)の処理は監督員の指示に従う。

### 3. 7 仕上げ材施工までの養生期間

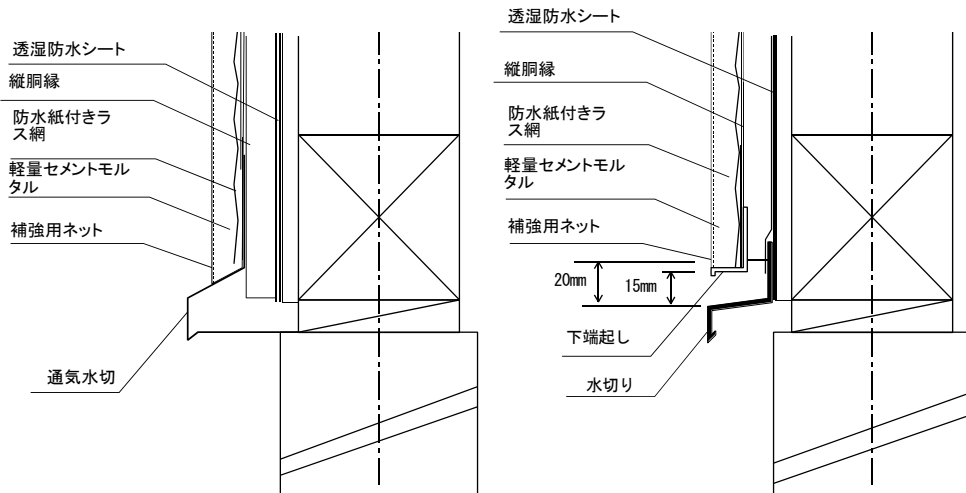
- ・軽量モルタル上塗り後通常期10日以上、冬期14日以上経過後、仕上げ材を施工する。
- 乾燥の遅れや、降雨により濡れ色となっている場合は、乾燥したのを確認後、仕上げ材を施工する。

## 4. 左官工事工程検査

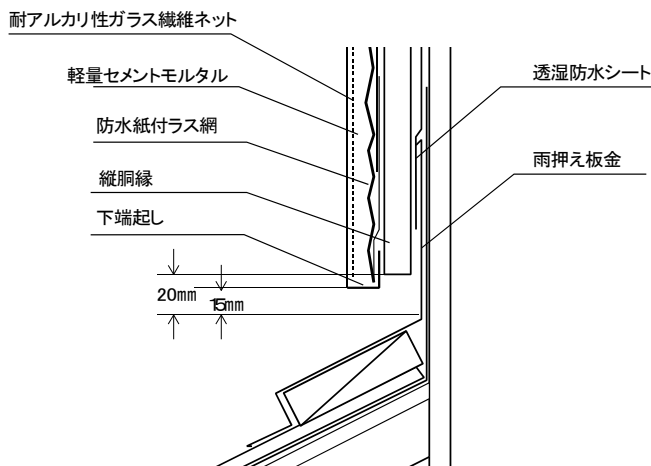
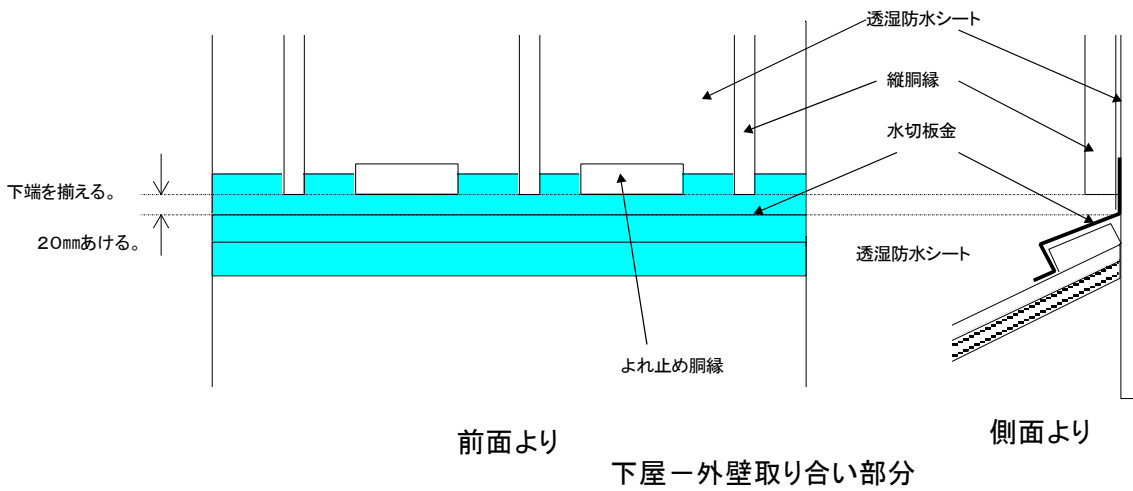
- ・チェックシートに基づき、左官工事工程検査を行い、記録する。不具合があれば、修正し、是正処置の内容も記録する。

5. 各部の納まり例

1) 土台回り

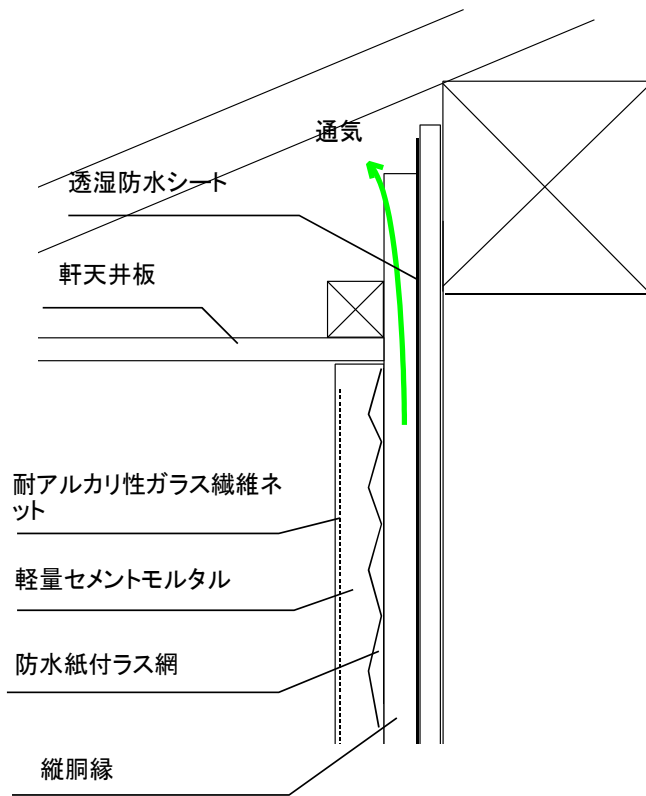


2) 外壁－外屋の取合い

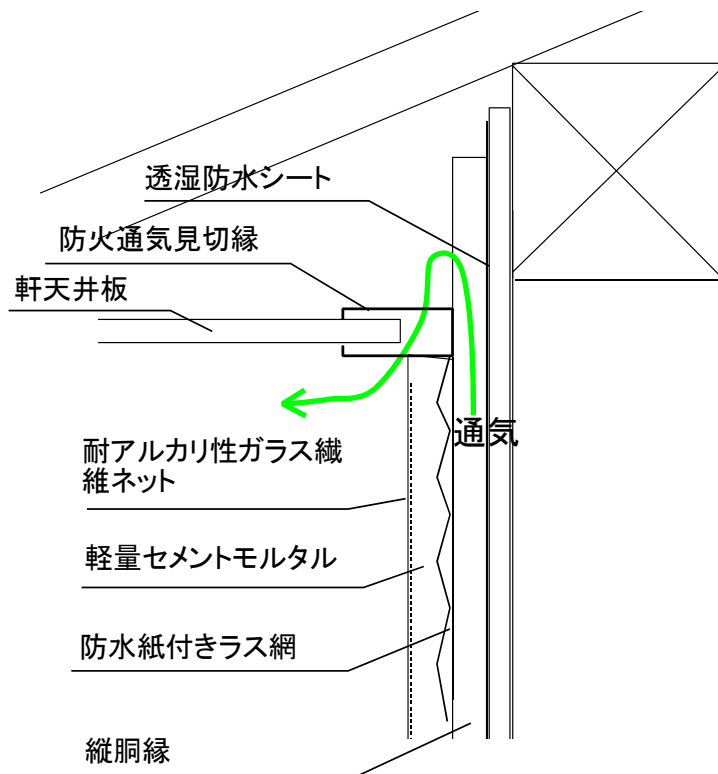


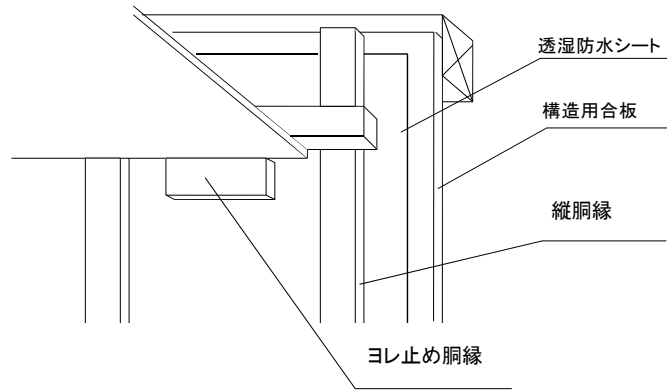
### 3) 軒天

#### ① 小屋裏換気、軒先換気の場合



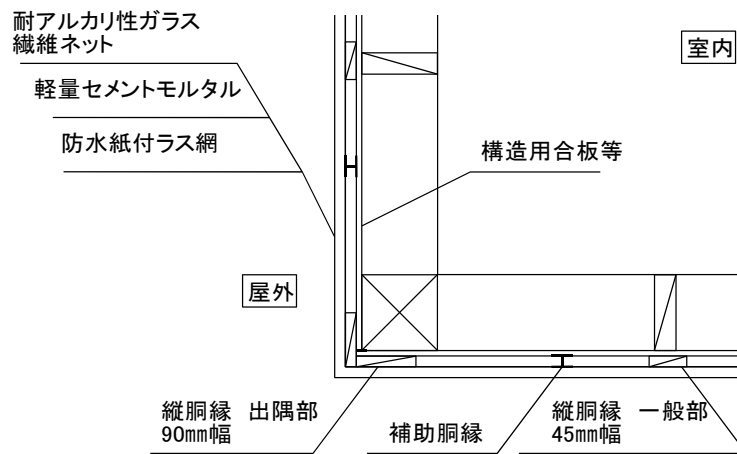
#### ② 軒天換気の場合



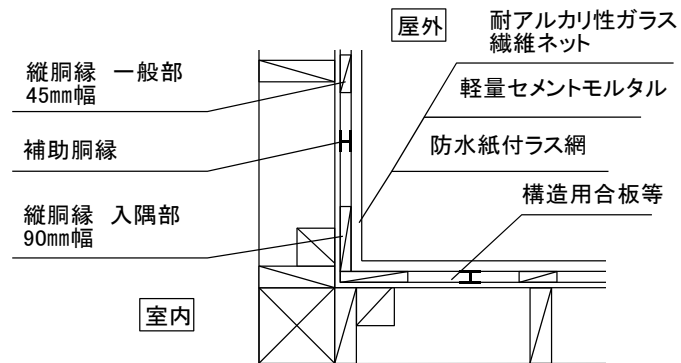


4) 出隅、入隅

① 出隅



② 入隅



## 6. 注意事項

「施工上の注意事項」及び「取扱い時の安全対策(概要)」を確認の上、安全対策には十分留意する。

### 6. 1 施工上の注意事項

- ◎強風や直射日光等による急激な乾燥を防止するため、シート養生等適切な措置をとる。
- ◎施工時気温が 5℃以下の場合及び硬化までに気温が 5℃以下となることが予想される場合は、施工を中止するか、適切な保温、採暖を行う。
- ◎悪天候(降雨、降雪等)、またその恐れがある場合は施工を避ける。

### 6. 2 取扱い時の安全対策(概要)

#### 1) 使用上の注意

- ◎取扱い時は必ず保護具(保護手袋・保護眼鏡・保護マスク等)を着用する。
- ◎強風時の、混練り時等に粉塵が周囲に飛散しないよう注意する。
- ◎取扱いは換気の良い場所にて行う。
- ◎取扱い後はうがい及び手洗いを十分に行う。
- ◎使用後の機具類は早めに水洗いする。

#### 2) 応急処置

- ◎目に入った場合、直ちに多量の水で15分以上洗眼し、医師の手当てを受ける。
- ◎皮膚に付着した場合、直ちに水で良く洗い流し、必要に応じて医師の診断を受ける。
- ◎誤飲した場合、多量の水を飲ませ吐かせた後、直ちに医師の診断を受ける。
- ◎吸引した場合、速やかに新鮮な空気のある場所に移動し、水又は温水でうがいを行って安静にし、必要に応じて医師の診断を受ける。

#### 3) 保管上の注意

- ◎雨露のかからない湿気の少ないところに保管し、地面に直接放置しない。
- ◎製品の製造年月日を確認し、有効期間が切れた製品は使用しない。また、開封した製品はできるだけ早く使用する。

#### 4) 輸送上の注意

- ◎袋の損傷による内容物の漏れが無いことを確認する。
- ◎転倒、落下、損傷が無いように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
- ◎湿気、水濡れに注意する。

#### 5) 廃棄上の注意

- ◎都道府県条例に基づき処理するか、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

6) 漏出時の注意

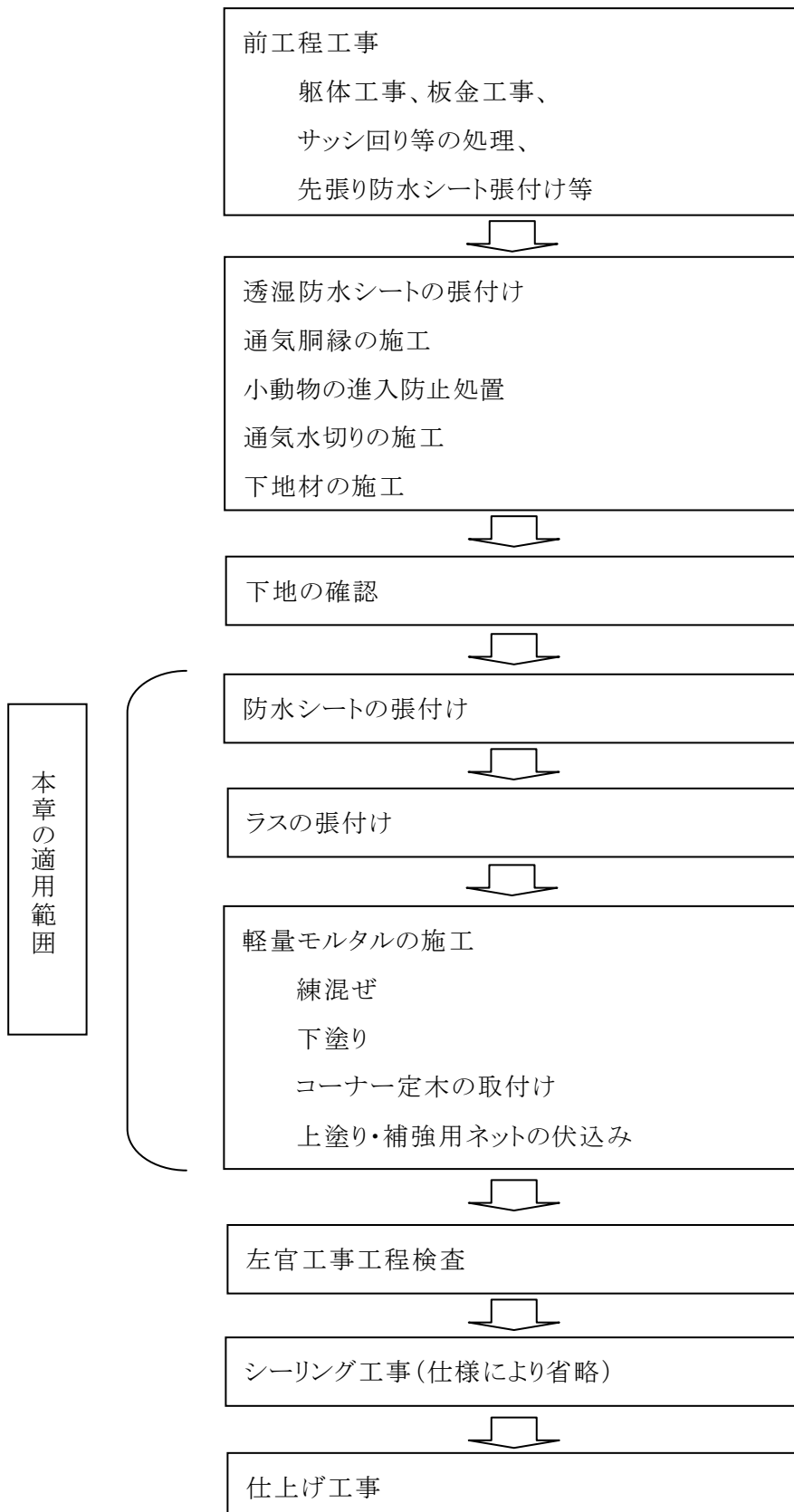
- ◎ 飛散したものは掃除機で吸い取るか、スコップ、ほうき等で集め、袋に回収する。
- ◎ 排水は中和、希釈処理などにより、河川等に直接流出しないよう対策を取る。

## 第4章 二層下地通気構法

### 1. 施工のフローチャートと本章の適用範囲

施工のフローチャートと本章の適用範囲を下記に示す。

#### 二層下地通気構法



## 2. 材料

### 2.1 法令

防火構造等の指定がある場合は、各使用材料・工法が認定条件に適合していることを確認する。

### 2.2 使用材料詳細

#### 本施工要領書で使用する材料

<p><b>軽量モルタル</b></p> <p>JASS 15 M-102 (ラス系下地用既調合軽量セメントモルタルの品質規準)適合品。 ただし、曲げ強さ及び吸水量は、以下の通気構法の条件に適合するもの。</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>通気構法の条件</td> <td>JASS 15 M-102の条件</td> </tr> <tr> <td>曲げ強さ</td> <td>25kgf/cm<sup>2</sup>(2.45N/mm<sup>2</sup>)以上</td> <td>2.0N/mm<sup>2</sup>以上</td> </tr> <tr> <td>吸水量</td> <td>36g以下</td> <td>40g以下</td> </tr> </table>		通気構法の条件	JASS 15 M-102の条件	曲げ強さ	25kgf/cm <sup>2</sup> (2.45N/mm <sup>2</sup> )以上	2.0N/mm <sup>2</sup> 以上	吸水量	36g以下	40g以下
	通気構法の条件	JASS 15 M-102の条件							
曲げ強さ	25kgf/cm <sup>2</sup> (2.45N/mm <sup>2</sup> )以上	2.0N/mm <sup>2</sup> 以上							
吸水量	36g以下	40g以下							
<p><b>防水シート及び留付け用ステーブル</b></p> <p><b>防水シート</b></p> <p>JIS A 6005(アスファルトルーフィングフェルト)に適合するアスファルトフェルト430以上、改質アスファルトフェルト又はこれらと同等以上の性能を有するものとする</p> <p><b>留付け用ステーブル</b></p> <p>足長 10mm以上</p>									
<p><b>防水テープ</b></p> <p>片面粘着防水テープ 防水シートの製造業者の指定品</p> <p>&lt;解説&gt; 防水テープと防水シートは組み合わせにより、接着力が確保できない場合があるので、注意する。</p>									
<p><b>ラス及び留付け用ステーブル</b></p> <p><b>ラス</b></p> <p>JASS 15 M-101 ラス系下地用鋼製金網の品質規準適合品で質量700g/m<sup>2</sup>以上、補強用を除き平ラスは使用しない。</p> <p><b>補強用平ラス</b></p> <p>JASS 15 M-101 ラス系下地用鋼製金網の品質規準適合品、質量450g/m<sup>2</sup>以上。開口部回り等の補強用に使用する。</p> <p><b>留付け用ステーブル</b></p> <p>JASS 15 M-105 ラス系下地用ステーブルの品質規準及びJIS A 5556(工業用ステーブル)適合品。</p> <p><b>推奨ラス及び留付け用ステーブル</b></p> <p>○メタルラス波形1号</p>									



留付け用ステーブル 1019J又は、これより足長又は線径が上回るもの

○カ骨付きラス(波付き)

留付け用ステーブル 719M又は、これより足長又は線径が上回るもの

<解説>

ステーブルは、ラス及びモルタルを下地に留め付けるために重要である。ステーブルは、線径や足の長さにより強度及び変形状が異なるので、躯体および下地材の変形に対して追従できる長さと破断を防ぐ強度が必要である。線径と足の長さが地震時のはく落を防ぐ上で重要な部分となる。

○防水シートとラスの組み合わせは次の通りとする。

ラス	メタルラス波形1号	カ骨付きメタルラス
防水シート		
アスファルトフェルト430	○	◎
改質アスファルトフェルト	◎	◎
その他の上記と同等以上の性能を有する防水シート	製造業者の仕様による	

<解説>

上記、◎の組み合わせは、防水シートのしわの発生を抑制し、これによりひび割れを低減できる。

補強用ネット

耐アルカリ性ガラス繊維ネット

目開き 4~10mm

質量 130g/m<sup>2</sup>以上

ジルコニア分16%以上の耐アルカリ性ガラス繊維ネットを推奨

<解説>

耐アルカリ性ガラス繊維ネットを軽量モルタル表面に伏せ込むことにより、ひび割れを効果的に抑制することができる。

耐アルカリ性ガラス繊維ネットとして市販されている製品には、ジルコニアを混入し、ガラス繊維自体の耐アルカリ性を確保したものと、ガラス繊維の表面に耐アルカリ処理したものがあるが、耐久性を考慮し、日本GRC工業会規格(ガラス繊維補強セメント板(GRC板)の材料規格)に準じ、ジルコニア分16%以上の耐アルカリ性ガラス繊維ネットを推奨する。

その他の材料

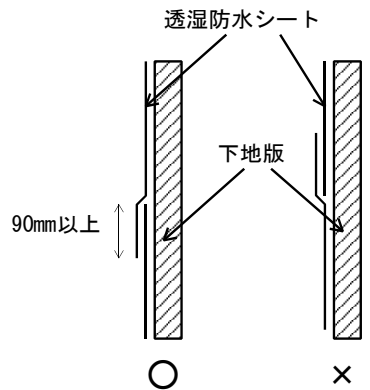
<p><b>下地材(前工程工事)</b> 構造用合版 9mm厚以上</p> <p><b>&lt;解説&gt;</b> 下地材として構造用合版は、<u>小幅板のように隙間がないため、ステープルを打つ際に防水シートを破きにくい。</u>また、<u>ステープルに対する保持力にも優れているため、下地材は構造用合版に限定した。</u></p>
<p><b>先張り防水シート(前工程工事)</b> アスファルトルーフィング工業会規格「改質アスファルトルーフィング下葺き材 ARK-04s」と同等以上の防水性能を有するものを推奨する。</p>
<p><b>防水テープ(前工程工事)</b> 住宅外装テクニカルセンター規格 JTC S-003に適合した両面粘着防水テープ</p>
<p><b>透湿防水シート(前工程工事)</b> JIS A 6111 (透湿防水シート) 適合品</p>
<p><b>胴縁(前工程工事)</b> 幅45mm 厚さ15mm以上</p> <p>防蟻・防腐剤による透湿防水シートの防水性低下対策</p> <p>① 防蟻・防腐措置を要する場合、当該通気胴縁と同程度の防蟻・防腐性を有するとされている無処理の樹種の胴縁(※1)を使用する。</p> <p>② 防蟻・防腐処理済み通気胴縁を使用する場合の対策 保管は、屋内又は、屋外の場合は、シート等で覆い、出来る限り濡らさない。 工事中、雨水にさらされぬよう、ラス、左官工事を速やかに行うか、適宜養生をする。</p> <p>※ 1:ひのき・ひば等を示す。詳細は住宅金融支援機構監修住宅金融普及協会発行の木造住宅工事仕様書 4.3.2 イに記載されたものを用いる。</p> <p><b>&lt;解説&gt;</b> 防蟻・防腐処理された通気胴縁を使用した場合、当該胴縁が外壁工事途中で雨水にさらされると、防蟻・防腐剤が溶け出して、透湿防水シートの防水性を低下させ、雨水が透湿防水シート裏面側にまわる恐れがあることが判明しており、これに対する対策として当面、①、②の対応をとる。</p>
<p><b>シーリング</b> JIS A 5758(建築用シーリング材)適合品で、JISの耐久性による区分の8020の品質又はこれと同等以上の耐久性を有するものとし、仕上塗材製造業者に確認する。</p> <p><b>&lt;解説&gt;</b> シーリング材の選択は、仕上げ材との相性があるため、仕上塗材製造業者に確認することとした。一般的には1成分形変成シリコン系(略号:MS-1)、1成分形ポリサルファイド系(略号:PS-1)、1成分形ポリウレタン系(略号:PU-1)が使われている。</p>

### 3. 施工方法

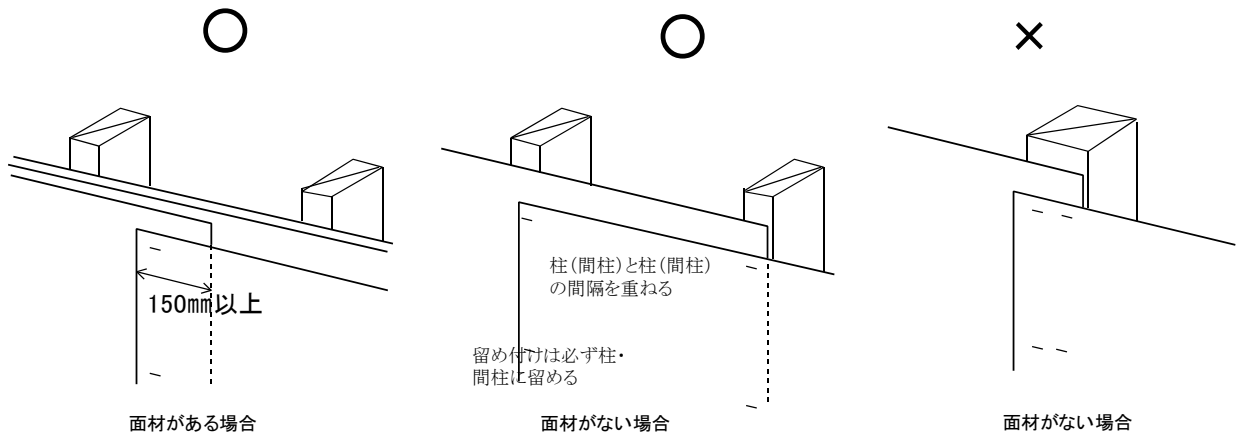
#### 3.1 透湿防水シートの張付け(前工程工事)

##### 1) 張り方向、配置、留付け間隔

- 透湿防水シートは横張りとし、下段から上段へ水平に張り付ける。たるみ、しわのないよう十分伸ばしながら、透湿防水シートを傷つけないように、タッカーを用いて上から打ち留める。タッカーはガンタッカー又は電動タッカーを使用し、ハンマータッカー及びエアータッカーは使用しない。
- 透湿防水シートの上下の重ねは、重ね代を90mm以上とし、上にくる透湿防水シートが外側になるように張り付ける。
- 平面部(一般部)の左右の継ぎ重ね代は面材下地がある場合は150mm以上とし、面材下地のない場合は、柱(間柱)と柱(間柱)の間隔重ね、留付けは必ず柱・間柱に留める。



上下の重ね

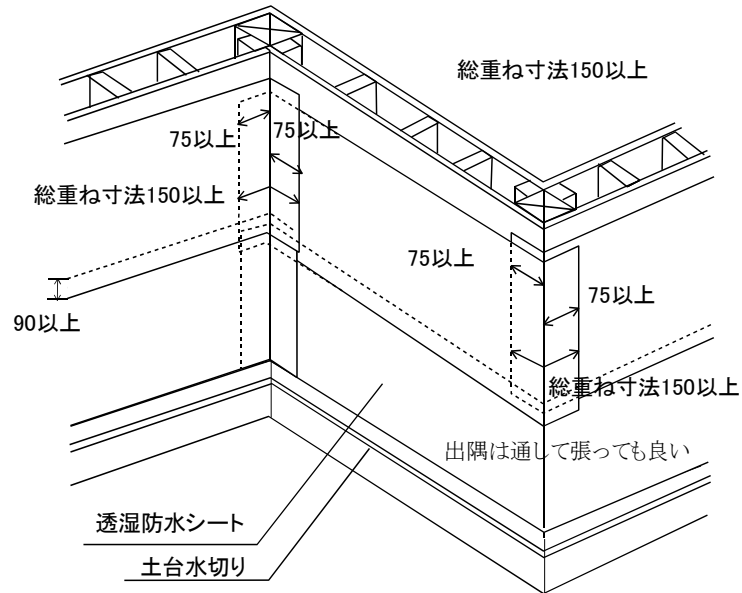


左右の重ね

## 2) 出隅・入隅

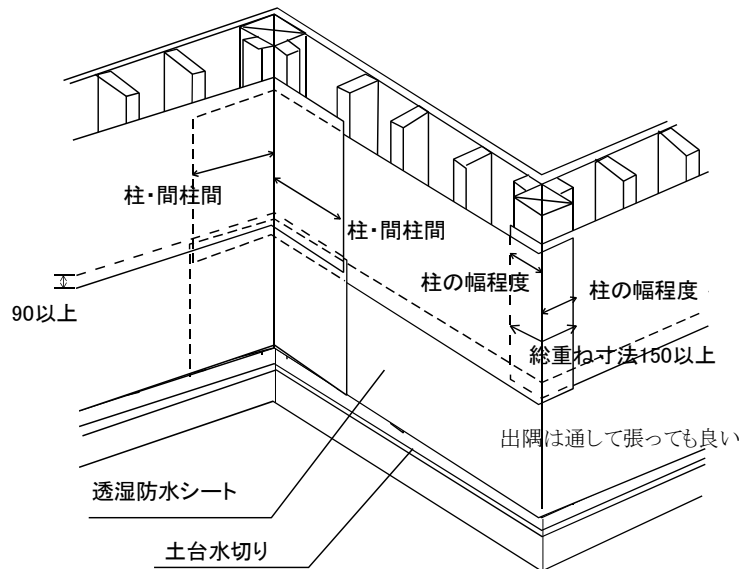
### ○面材下地がある場合

- ・入隅は両側それぞれ 75 mm以上(総重ね 150 mm以上)重ねて張る。
- ・出隅は継ぎ目を設けずに通して張るか、両側それぞれ 75 mm以上(総重ね 150 mm以上)重ねて張る。



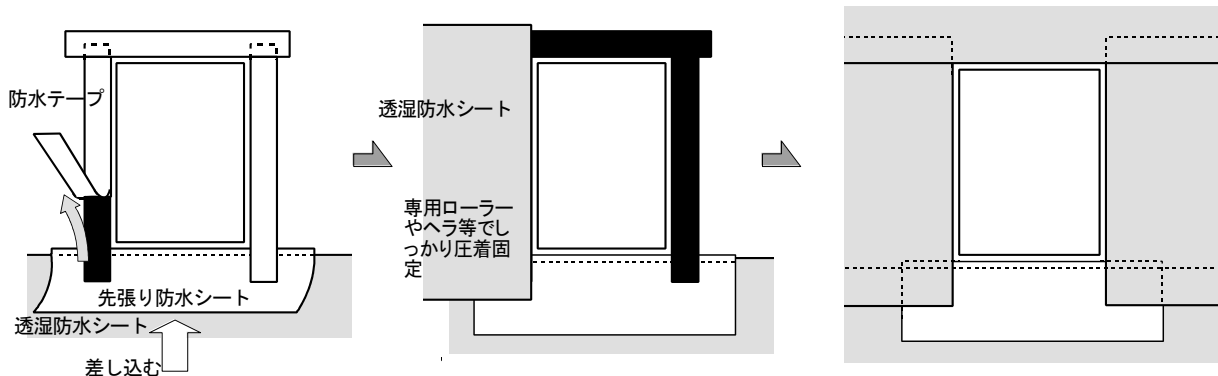
### ○面材下地がない場合

- ・入隅は両隣の柱間柱まで重ねて張る。
- ・出隅は継ぎ目を設けずに、通して張るか、両側それぞれ柱の幅程度(総重ね150mm以上)重ねて張る。



### 3) サッシ周囲の処理

- ・両面粘着防水テープの剥離紙を透湿防水シートを張る直前に剥がす。
- ・先張り防水シートの内側に透湿防水シートを差し込む。
- ・防水テープの接着面は専用ローラーやヘラ等でしっかり圧着固定する。

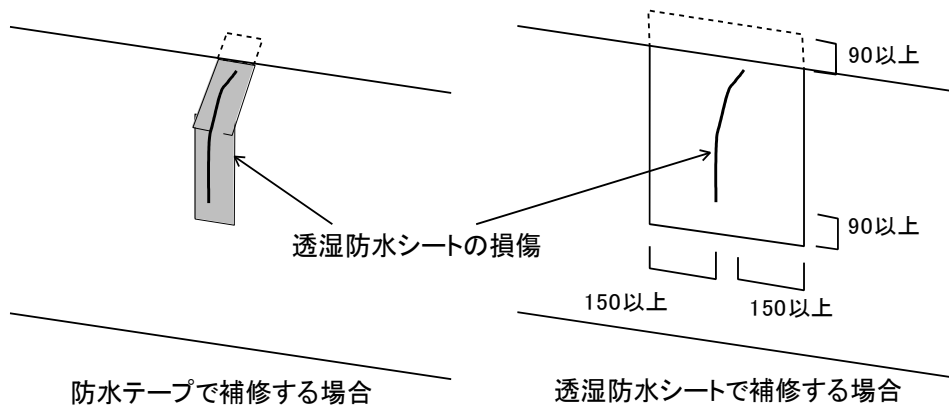


### 4) 先張り防水シート取合い部の納まり

- ・軒天等、先張り防水シートを使用している部分には先張り防水シートの内側に透湿防水シートを90mm以上差し込む。

### 5) 透湿防水シートが損傷した場合の処理

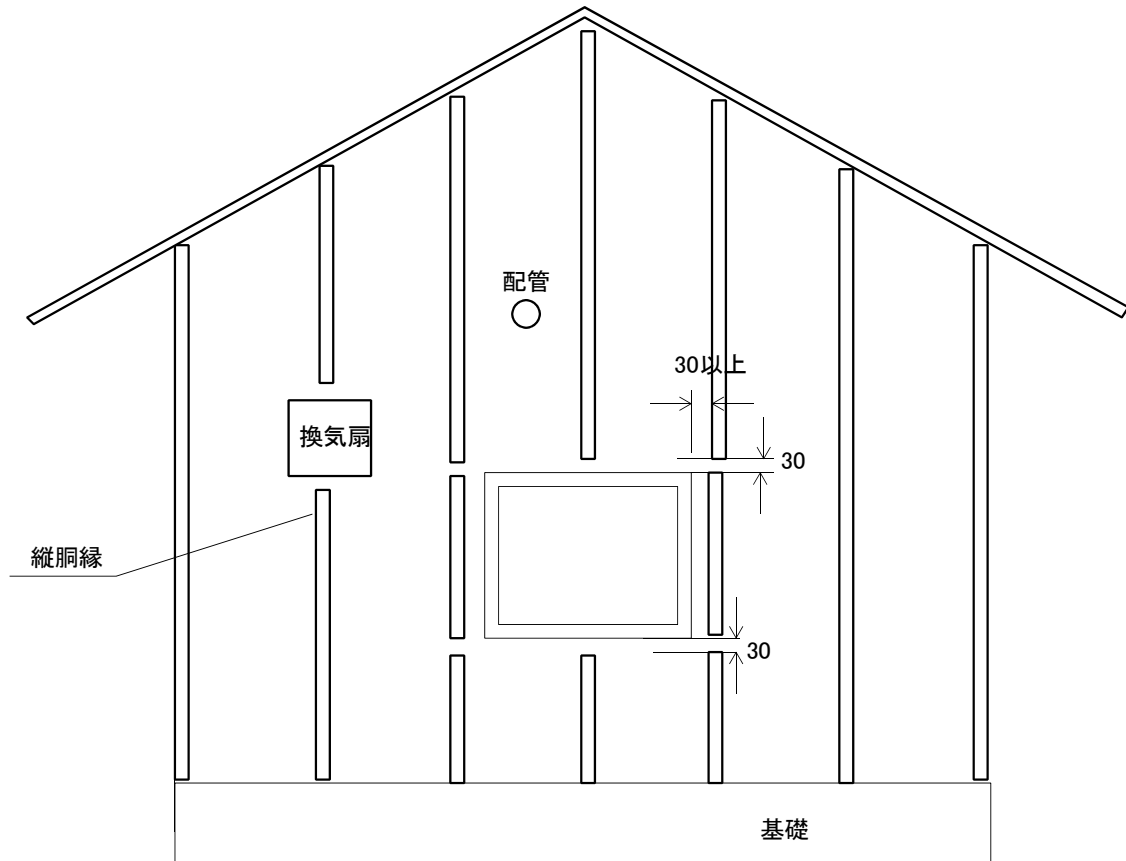
- ・万一、透湿防水シートが損傷した場合は、片面粘着防水テープを使用するか、透湿防水シートを重ね張りして、補修する。



### 3.2 胴縁等の留付け

#### 1) 縦胴縁、開口部回りの胴縁

- ・幅45mmの胴縁を使用し、釘で取り付ける。
- ・縦胴縁を455mm以下(メーターモジュールの場合は500mm以下)の間隔で、柱、間柱、たて桟上に固定する。
- ・開口部回り部分には通気できるように隙間をあけて留め付ける。



#### 2) 後付け付属物

- ・後付け付属物(物干金物等)取付け部分にも固定できる様に必ず胴縁を入れる。

#### 3) 通気水切りの取付け

- ・通気水切りは縦胴縁の上から取り付ける。胴縁上に下端起こしを使用する方法もある。

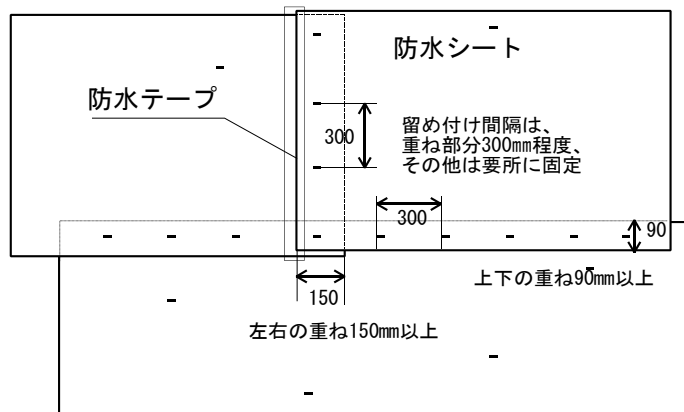
#### 4) 通気層への小動物の侵入防止対策

- ・通気層へのコウモリやハチ等の侵入を防ぐため、土台水切り上部、下屋との取合い部分に 防虫部材の使用などの対策をとる。

### 3. 3防水シートの張付け

#### 1) 張り方向、配置、留付け間隔

- ・防水シートは横張りとし、継ぎ目は左右150mm以上、上下90mm以上重ねて、水平に張り付ける。たるみ、しわができないよう十分伸ばして、防水シートを傷つけないように、タッカーで上から打ち留める。タッカーはガンタッカー又は電動タッカーを使用し、ハンマータッカー及びエアータッカーは使用しない。
- ・留付け間隔は、重ね部分は300mm程度、その他の箇所は要所に留め付け、防水シートの左右の継ぎ目には片面粘着防水テープを張る。

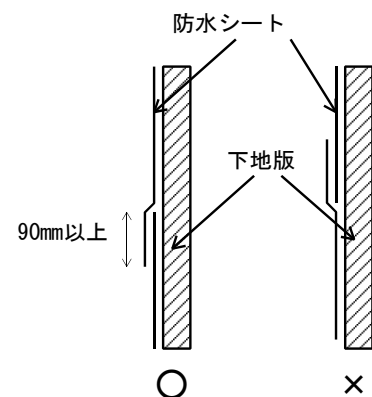


#### <解説>

- 1 防水シートのたるみ、しわはひび割れ発生の原因となるので注意する。
- 2 雨水などの横流れ防止による防水性の強化と、ラス及びモルタル施工までに風圧などの外力によるステーブル孔の拡大による防水性低下を防止するために、防水テープを防水シート左右の継ぎ目に張ることとした。

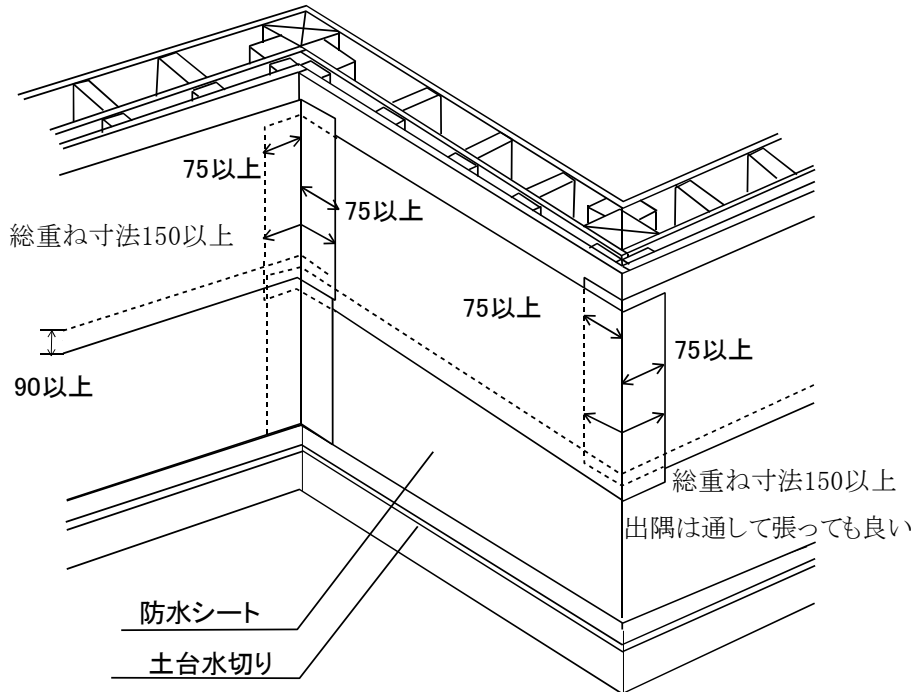
#### 2) 上下の重ね

- ・防水シートの上下の重ねは、重ね代を90mm以上とし、上にくる防水シートが外側になるように張り付ける。



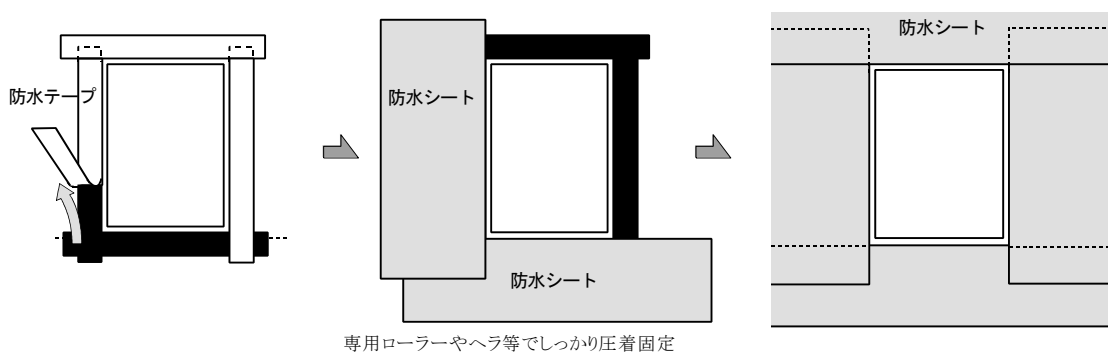
### 3) 出隅・入隅

- ・入隅は両側それぞれ 75 mm以上(総重ね 150 mm以上)重ねて張る。
- ・出隅は継ぎ目を設けずに通して張るか、両側それぞれ 75 mm以上(総重ね 150 mm以上)重ねて張る。



### 4) サッシ周囲の処理

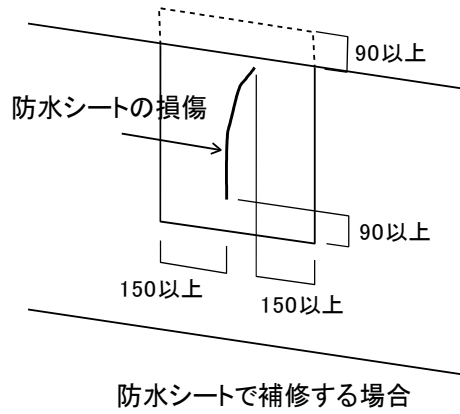
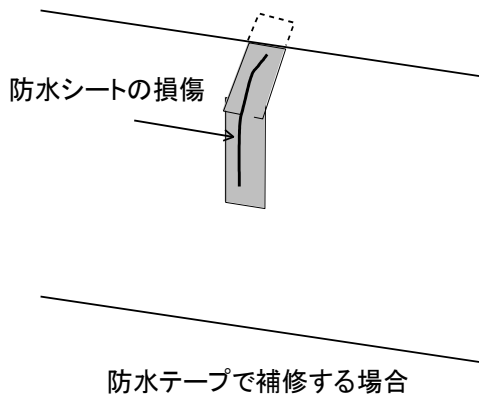
- ・両面粘着防水テープの剥離紙を防水シートを張る直前に剥がす。
- ・防水テープの接着面は専用ローラーやヘラなどでしっかり圧着固定する。





### 5) 防水シートが損傷した場合の処理

- ・万一、防水シートが損傷した場合は、片面粘着防水テープを使用するか、防水シートを重ね張りして、補修する。

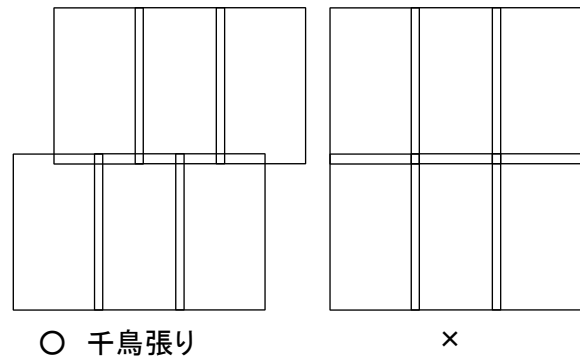


### 3. 4メタルラスの張付け

#### (1) 波形ラスの場合

##### 1) 張り方向 配置

縦又は横張りとし、千鳥張りとする。



#### <解説>

波形ラスは、縦張り、横張りが可能である。

千鳥張りとしないと4枚重ね部分ができ、平面性や、軽量モルタルの充填性が悪くなる。

##### 2) 継ぎ目

・ラスの継ぎ目はラスの長手方向 1山以上、短手方向30mm以上重ねる。

##### 3) ラスの固定

・ステープルの間隔は継ぎ目部70mm以内、中間部100mm以内とし、浮き、たるみができないよう千鳥に谷部を留め付ける。

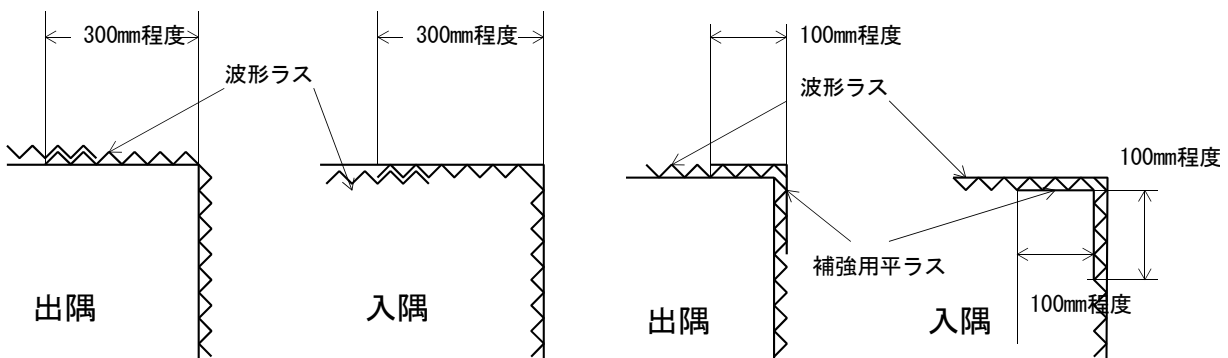
・ステープルの留付けは、エアータッカーを使用する。

##### 4) 出隅部、入隅部の処理

・縦張りの場合は、回し張り又は突き付け張りとし、横張りの場合は、突き付け張りとする。

・回し張りとする場合は、コーナーから300mm程度廻す。

・突き付け張りとする場合は、200mm幅程度の補強用平ラスを中央部から 90° に折り曲げ(片面100mm程度)、上から張り付ける。



回し張りの処理

突き付け張りの処理

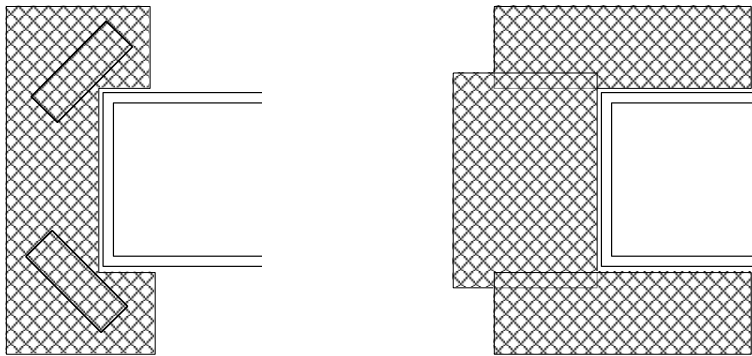
#### <解説>

ラスの浮き、たるみ、固定不良は軽量モルタルのひび割れの原因となるので注意する。

横張りの場合、出入隅部を、回し張りとする、浮き、たるみが発生しやすくなるため、禁止する。

### 5) 開口部回り等の処理

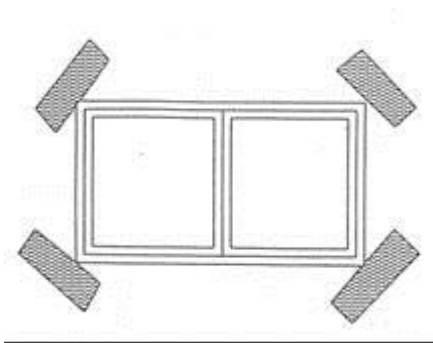
- ・開口部(サッシ等)の隅角部にはラスの継ぎ目を設けず、開口部(サッシ)の形にあらかじめラスを切断し、張り付ける。



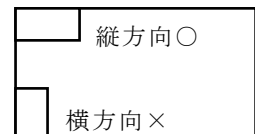
○ 開口部の形にあらかじめラスを切断    × 隅角部にラスの継ぎ目を設ける。

- ・開口部4隅に出来るだけ近づけて150×400mm程度以上の補強用平ラスを重ね張りし、補強する。その他、構造的に弱い部分、振動する部分にも重ね張りする。

(注)必ず、補強用平ラスの重ね張りは波形ラスを張った後に行う。



補強用平ラスは縦(長手)方向に切断する。



#### <解説>

- ・軽量モルタルの乾燥収縮、及び様々な原因によるひび割れは開口部4隅の斜め方向に入りやすい傾向があるため、補強用平ラスで補強する仕様とした。
  - ・平ラスは縦方向の引っ張り強度が大きい特性がある。このため切断方向は縦方向とした。
- また、補強用平ラスは、補強効果を考慮し、必ず波形ラスを張った後に(上に)張る。

### 6) アルミサッシ回り

電解腐食を避けるため、ラスがアルミサッシと接触しないように10mm以内で離して留め付ける。

#### <解説>

イオン化傾向の異なる金属が接触すると、電位差が生じて電流が流れ、イオン化傾向の大きな金属が腐食する。この現象を電解腐食という。

ラスがアルミサッシに接触すると電解腐食により、アルミが腐食するため、ラス施工時にはラスをアルミサッシに接触させてはならない。

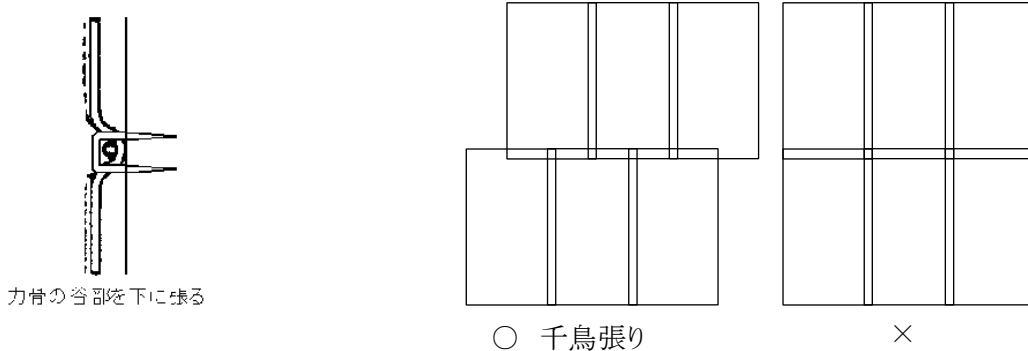
#### 7) 防水シートの確認

- ・ラス工事完了後、防水シートの損傷が確認された場合は、防水テープを使用するか、防水紙を重ね張りして、補修する。

## (2) 力骨付きラスの場合

### 1) 張り方向、配置

- ・縦又は横張りとし、千鳥張りとする。
- ・表裏を確認し、力骨の谷部を下側にして張る。

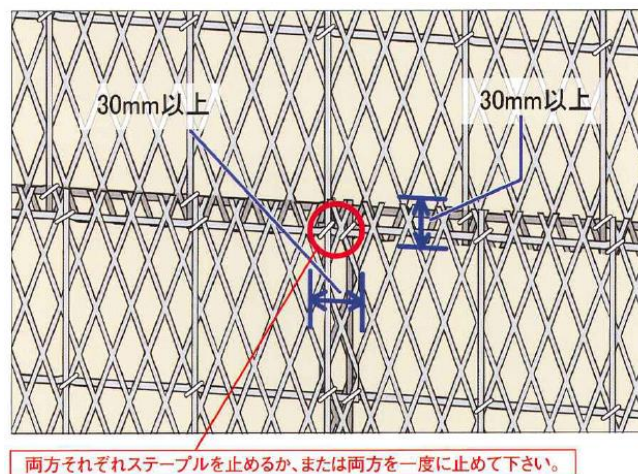


### <解説>

- ・力骨付きラスは、縦張り、横張りいずれとすることもできる。力骨の形状により表裏があり、力骨の谷部が下地側となるように張る。
- ・千鳥張りとしないと4枚重ね部分ができ、平面性や、軽量モルタルの充填性が悪くなる。

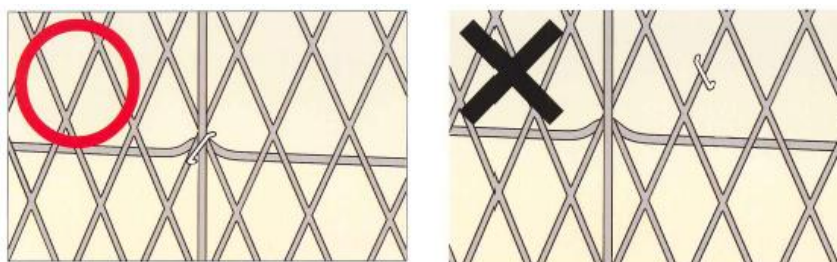
### 2) 継ぎ目

- ・ラスの継ぎ目の重ねは上下、左右とも、30mm以上とする。ただし、力骨どうしを重ねてはいけない。



### 3) ラスの固定

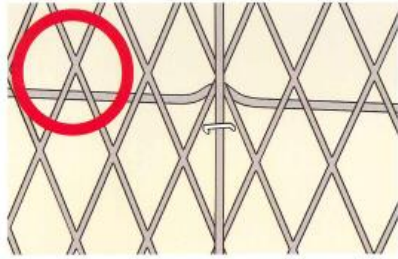
- ・エアータッカーを使用し、ラスの力骨の交点にステーブルを打ち留める。縦横150mm間隔。浮き、たるみの無いように留め付ける。



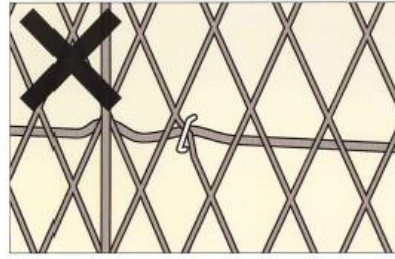
原則力骨の交点に打つ

平ラス部分には打たない

- ・下地にサッシのフィンや金物などがあるため、力骨の交点に打てない場合は、出来るだけ交点に近いところにステープルを打つ。その場合は、必ずまっすぐな力骨(波の付いていない方)に打つ。

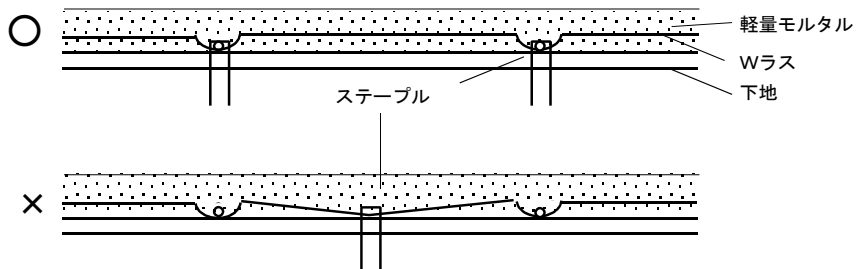


力骨の交点に打てない場合は、出来るだけ近い、まっすぐな力骨に打つ



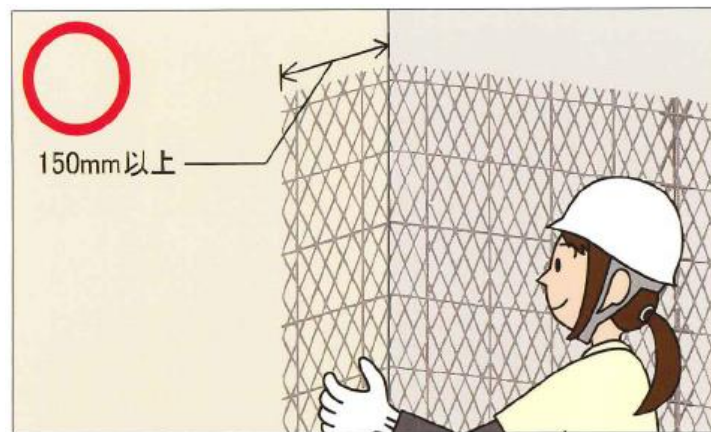
波付の力骨には打たない。

注) 波付の力骨にステープルを打つとラスが軽量モルタルの中央近くに入らない。

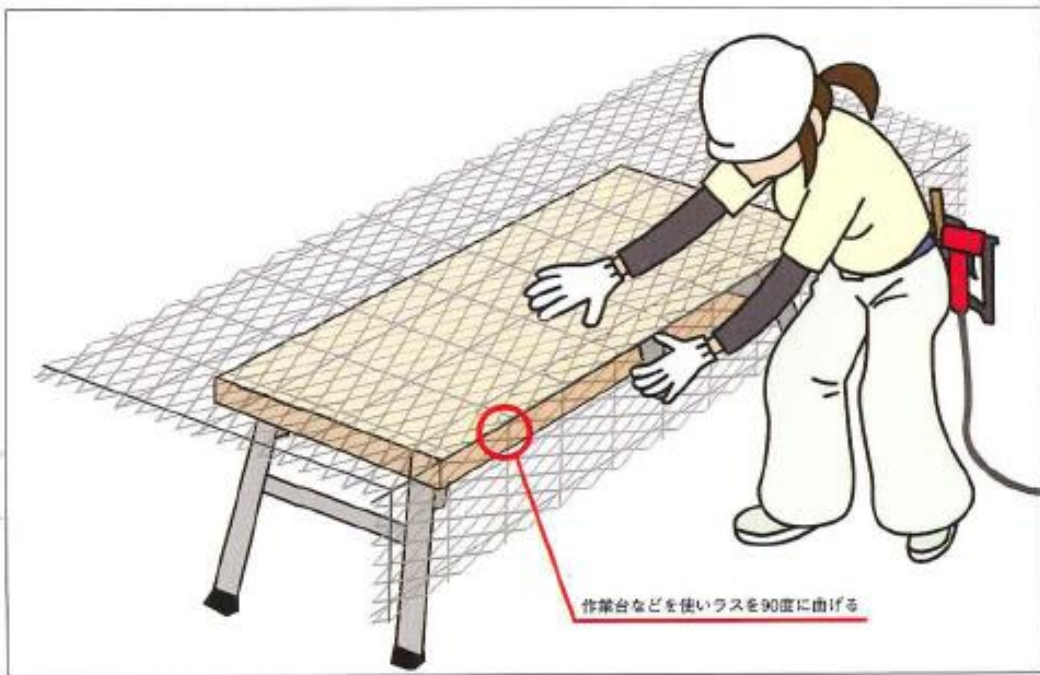


#### 4) 出隅部、入隅部の処理

- ・必ず折り曲げ部を150mm以上取って、回し張りする。突き付け張りはしない。

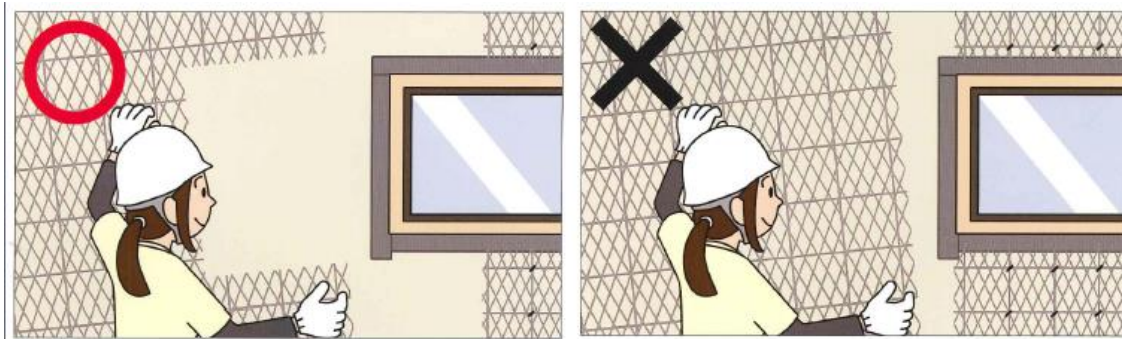


- ・張る前にラスをきちんと直角に折り曲げておく。事前に直角曲げをしない状態での施工はしない。

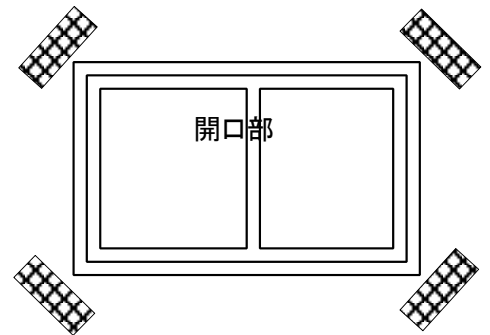


5) 開口部回り等の処理

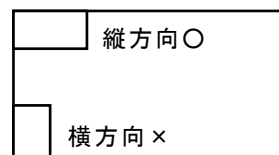
- ・開口部(サッシ等)の隅角部にはラスの継ぎ目を設けず、開口部(サッシ)の形にあらかじめラスを切断し、張り付ける。



- ・開口部4隅に出来るだけ近づけて150×400mm程度以上の補強用平ラスを重ね張りし、補強する。



- ・補強用平ラスは縦(長手)方向に切断する。



- ・その他、構造的に弱い部分、振動する部分にも重ね張りする。

(注)必ず、重ね張りは力骨付きラスを張った後に行う。

#### 6)アルミサッシ回り

- ・電解腐食を避けるため、ラスがアルミサッシと接触しないように10mm以内で離して配置する。

3.4 (1) 6)の<解説>を参照のこと。

#### 7)防水シートの確認

- ・ラス工事完了後、防水シートの損傷が確認された場合は、防水テープを使用するか、防水紙を重ね張りして、補修する。



### 3. 5 軽量モルタルの塗付け、補強用ネットの伏込み

#### 1) 諸工事完了の確認

- ・外壁に衝撃を与える諸工事(内装、巾木、棚取付け等)が完了していることを監督員に確認する。

#### 2) 周辺の養生

- ・周辺部を養生テープ、養生用マスキングテープ等を用いて、養生する。
- 軽量モルタルの塗厚が確保されることを留意して、サッシ、軒、ケラバ、水切などを養生する。

#### 3) 補強用ネットの裁断

- ・軽量モルタル塗付けに先立ち、伏せ込みやすいよう補強用ネットを裁断する。

#### 4) 練り混ぜ

- ・モルタルミキサーを使用し、標準水量の水を徐々に加えて十分練り混ぜる。
- ・練り混ぜ時間は、製造業者の指定時間とする。
- ・練り混ぜ後、製造業者の指定時間以内に使用する。

(注)

- ・練り混ぜには水道水等の清水を使用する。
- ・指定材料以外のものは練り混ぜない。

#### 5) 塗付け、補強用ネットの伏込み

##### イ) 下塗り

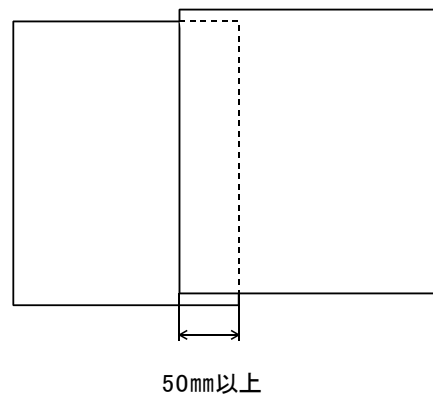
- ・材料がラスによくからまるようコテ圧を加えながら、ラスが隠れる塗厚で下塗りする。

##### ロ) 上塗り及び全面補強用ネット伏込み

- ・軽量モルタル上塗り後、ムラを取り、直ちに全面に張り残しがないように、裁断した補強用ネットを伏せ込み、補強用ネットの浮きがなくなるように木ゴテ又はスチロールコテなどでノロを浮かせながらなじませ、金コテで通す。
- ・下塗りが十分乾燥してから上塗りする場合は、水湿しを行ってから上塗りにかかる。
- ・補強用ネットの継ぎ目は縦横とも50mm以上重ねる。
- ・補強用ネットの伏込みは、必ず軽量モルタル塗付け後直ちに行う。特に、補強用ネットの重ね部分は伏込みが不足しやすい為注意する。
- ・入隅部分は補強用ネットを200mm以上回して伏せ込む。
- ・出隅部分は補強用ネットを①回し張りか、②突き付け張りのうちいずれかを選択する。

##### ① 回し張り

200mm以上回して張る。出隅でコーナー定木を使用する場合は、特にコーナー部分でネ

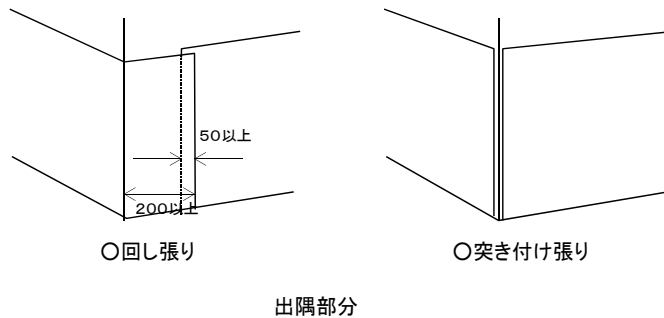


ットの浮きがないよう、かつネットに傷が付かないように丁寧に伏せ込む。

## ②突き付け張り

ネットは端部まで張る。概ねコーナーから5mm程度以内。

出隅部分は壁面の左右両端より伏せ込みはじめて途中で50mm以上重ねて継ぐように伏せ込むと、端まで伏せ込みやすくなる。



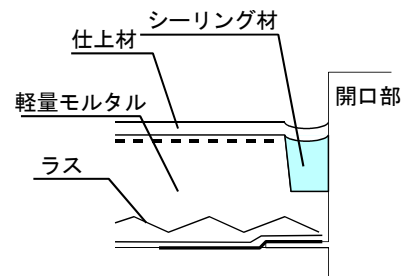
- ・仕上げ材の種類により、補強用ネットの網目や影などが、仕上がりに影響する場合がありますので、必要に応じシゴキ材で補修する。
- ・補強用ネットは軽量モルタル中に十分伏せ込まれていないと、ひび割れ抑制効果が発揮できない。軽量モルタルが締まってから伏せ込むと、補強用ネットの伏せ込みが不足するので、補強用ネットの伏せ込みは、必ず軽量モルタル塗付け後、直ちに行う。特に、補強用ネットの重ね部分は注意する。
- ・シーリング目地を入れる場合は目地幅を離して補強用ネットを伏せ込む。

### <解説>

・下塗り乾燥後、上塗りする場合は、下塗りの締まり具合を見計らって、表面に櫛目やホウキ目を入れて粗面としておくと、引っかけり効果と接着面積が増える効果により上塗りとの接着がよくなる。

## 6)シーリング目地

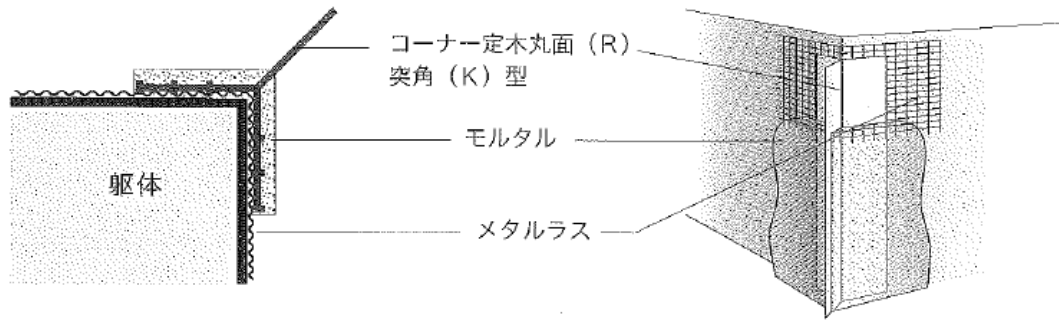
- ・サッシ回り等にシーリング目地をとる場合は、目地サイズを幅10mm×深さ10mm程度とする。  
目地棒を入れ、軽量モルタル硬化後、脱型するか、軽量モルタル上塗りが締まってから、目地ゴテで押し目地を入れる。



## 7)出隅コーナー定木の取付け

出隅部分にコーナー定木を使用する場合は、軽量モルタルの下塗り前又は下塗り時に行う。コーナー部分に水系を張り、コーナー部全体に軽量モルタルを塗り、軽量モルタルの塗厚を考慮してコーナー定木の位置を決め、軽量モルタルで固定する。

軽量モルタルの上塗りは、コーナ一定木を固定した軽量モルタルが硬化後行う。



<解説>

軽量モルタル上塗り時に、コーナ一定木が固定されていない場合、コーナ一定木が動き、軽量モルタルとコーナ一定木間の肌別れや、コーナ一定木の足部分端部のひび割れなど不具合が発生する原因となる。必ず、コーナ一部分の一部を塗るのではなく、コーナ一部分全体に軽量モルタルを塗って、コーナ一定木を固定し、硬化後、軽量モルタルを上塗りする。

8) 塗り厚の確保

軽量モルタルの塗厚は、次の手順で指定厚みを確保する。

①塗りつけ前

塗厚を考慮して、サッシや、軒、ケラバ、水切などを養生する。

出隅コーナ一定木は塗厚を考慮して、水糸を使用し、位置決めする。

②塗付け時

塗厚を確認しながら、塗り付ける。

③確認検査

下塗り完了後、上塗り完了後、それぞれ塗り厚を測定し、合計塗厚が不足した場合は塗り足す。

<解説>

塗り厚測定には、市販の塗り厚測定器又は、スケールなどを用いる。



3. 6サッシ回り、貫通部回り等のシーリング処理(仕様により省略)

- ・軽量モルタル乾燥後、サッシ回り、貫通部回り、及びその他必要箇所にシーリング処理をする。

3. 7後片付け・清掃

- ・軽量モルタルが残らないように清掃する。
- ・全ての養生材を剥がした後、軽量モルタルがついていないか確認する。特に屋根は注意する。
- ・道具などの洗いは必ず、指定された場所で行い、U字溝等では絶対に行わない。
- ・作業中に発生したゴミ(軽量モルタルの袋、養生材等)の処理は監督員の指示に従う。

### 3. 8仕上材施工までの養生期間

- ・軽量モルタル上塗り後通常期10日以上、冬期14日以上経過後、仕上材を施工する。
- ・乾燥の遅れや、降雨により濡れ色となっている場合は、乾燥したのを確認後、仕上材を施工する。

### 4. 左官工事工程検査

- ・チェックシートに基づき、左官工事工程検査を行い、記録する。不具合があれば、修正し、是正処置の内容も記録する。

### 5. 注意事項

「施工上の注意事項」及び「取扱い時の安全対策(概要)」を確認の上、安全対策には十分留意する。

#### 5. 1 施工上の注意事項

- ◎強風や直射日光等による急激な乾燥を防止するため、シート養生等適切な措置をとる。
- ◎施工時気温が 5℃以下の場合及び硬化までに気温が 5℃以下となることが予想される場合は、施工を中止するか、適切な保温、採暖を行う。
- ◎悪天候(降雨、降雪等)、またその恐れがある場合は施工を避ける。

#### 5. 2 取扱い時の安全対策(概要)

##### 1) 使用上の注意

- ◎取扱い時は必ず保護具(保護手袋・保護眼鏡・保護マスク等)を着用する。
- ◎強風時の、混練り時等に粉塵が周囲に飛散しないよう注意する。
- ◎取扱いは換気の良い場所にて行う。
- ◎取扱い後はうがい及び手洗いを十分に行う。
- ◎使用後の機具類は早めに水洗いする。

##### 2) 応急処置

- ◎目に入った場合、直ちに多量の水で15分以上洗眼し、医師の手当てを受ける。
- ◎皮膚に付着した場合、直ちに水で良く洗い流し、必要に応じて医師の診断を受ける。
- ◎誤飲した場合、多量の水を飲ませ吐かせた後、直ちに医師の診断を受ける。
- ◎吸引した場合、速やかに新鮮な空気のある場所に移動し、水又は温水でうがいを行って安静にし、必要に応じて医師の診断を受ける。

##### 3) 保管上の注意

- ◎雨露のかからない湿気の少ないところに保管し、地面に直接放置しない。
- ◎製品の製造年月日を確認し、有効期間が切れた製品は使用しない。また、開封した製品はできる

だけ早く使用する。

#### 4) 輸送上の注意

- ◎袋の損傷による内容物の漏れが無いことを確認する。
- ◎転倒、落下、損傷が無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
- ◎湿気、水濡れに注意する。

#### 5) 廃棄上の注意

- ◎都道府県条例に基づき処理するか、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

#### 6) 漏出時の注意

- ◎飛散したものは掃除機で吸い取るか、スコップ、ほうき等で集め、袋に回収する。
- ◎排水は中和、希釈処理などにより、河川等に直接流出しないよう対策を取る。

ラス下地既調合軽量セメントモルタル塗り工法施工要領書

2013年6月21日 第1.0版

編集著作人 日本建築仕上材工業会 軽量セメントモルタル部会  
技術委員会

◎直張り構法 施工管理チェックシート  
(工事管理者用)

左官工事完了印	印
---------	---

<物件名>

<工事期間> 年 月 日 ~ 年 月 日

関連業者		担当者		TEL
工事管理者		現場担当者		
専門工事業者(防水シート施工)		施工担当者		
専門工事業者(ラス施工)		施工担当者		
専門工事業者(モルタル施工)		施工担当者		

<使用材料>

品目	製品名	数量	LOT
防水シート			
ステーブル(防水シート用)			
防水テープ			
ラス			
ステーブル(ラス用)			
軽量セメントモルタル			
補強用ネット			

<工事管理者チェック項目>

項目	チェック内容 ※()内の表記は施工要領書該当ページを示す。	検査日	是正処置内容 (判定が否の場合)	完了日
		判定		
左官工事 着工前 再確認	ラス下地既調合軽量セメントモルタル塗り工法施工要領書を読み把握したか?	/		/
	構造用合板が使用されているか?(p.5)	/		/
	構造用合板の接合部に著しい段差がないか?	/		/
	サッシ周囲に先張り防水シートが張られているか?(p.8)	/		/
	サッシ周囲の両面粘着防水テープが張られているか?(p.8)	/		/
防水シート 施工	防水シートの施工が全て完了しているか?	/		/
ラス施工	ラスの施工が全て完了しているか?	/		/
モルタル 施工	モルタルの施工が全て完了しているか?	/		/
仕上材までの養生	モルタル上塗り後、通常期10日以上、冬期14日以上養生をしたか?(p.20)	/		/

<その他 特記事項>

--

◎直張り構法 施工管理チェックシート  
(専門工事業者 防水シート施工用)

防水シート施工完了印	印
------------	---

<物件名>

<施工期間>

年 月 日 ~ 年 月 日

関連業者	担当者	TEL
専門工事業者(防水シート施工)	施工担当者	

<使用材料>

品目	製品名	数量	LOT
防水シート			
ステーブル(防水シート用)			
防水テープ			

<専門工事業者(防水シート施工)チェック項目>

項目	チェック内容 ※()内の表記は施工要領書該当ページを示す。	検査日	是正処置内容 (判定が否の場合)	完了日
		判定		
事前確認	ラス下地既調合軽量セメントモルタル塗り工法施工要領書を読み把握したか?	/		/
防水シートの張り付け	防水シートは施工要領書で指定のものを使用したか?(p.4)	/		/
	防水シートを留め付けるステーブルは施工要領書で指定のものを使用したか?(p.4)	/		/
	防水シートの留め付けはガンタッカー又は電動タッカーを使用したか?(p.7)	/		/
	防水シートは、横張り下から張り、上にくるシートが外側になっているか?(p.7)	/		/
	防水シートの継ぎ目は、左右150mm以上、上下90mm以上重ねたか?(p.7)	/		/
	ステーブルの留め付け間隔は、上下・左右の重ね部で300mm程度、その他は要所に留め付けたか?(p.7)	/		/
	防水シートの張り付け後に、しわ・たるみ・損傷等が生じていないか?(p.7)	/		/
	防水シートの左右の継ぎ目に片面粘着防水テープを張り付けたか?(p.7)	/		/
	防水シートの入隅処理は、両側それぞれ75mm以上重ね張りしたか?(p.8)	/		/
	防水シートの出隅処理は、両側それぞれ75mm以上重ね張りするか、継ぎ目を設けずに通して張付けたか?(p.8)	/		/
	開口部回り及び軒天回りの防水シートは先張り防水シートの内側に90mm以上差し込んだか?(p.8.9)	/		/

<その他 特記事項>



◎直張り構法 施工管理チェックシート  
(専門工事業者 ラス施工用)

ラス施工完了印	印
---------	---

<物件名>

<施工期間>                      年                      月                      日                      ~                      年                      月                      日		
関連業者	担当者	TEL
専門工事業者(ラス施工)	施工担当者	

<使用材料>

品目	製品名	数量	LOT
ラス			
ステーブル(ラス用)			

<専門工事業者(ラス施工)チェック項目>

項目	チェック内容 ※()内の表記は施工要領書該当ページを示す。	検査日	是正処置内容 (判定が否の場合)	完了日
		判定		
事前確認	ラス下地既調合軽量セメントモルタル塗り工法施工要領書を読み把握したか?	/		/
ラスの張り付け	ラスは施工要領書で指定のものを使用したか?(p.4)	/		/
	ラスを留め付けるステーブルは施工要領書で指定のものを使用したか?(p.4)	/		/
	ラスの留め付けはエアータッカーを使用したか?(p.10.13)	/		/
	ラスは、縦又は横張りで千鳥張りしたか?(p.10.13)	/		/
	力骨付ラスを使用した場合、表裏を確認し、力骨の谷部が下地側に張られているか?(p.13)	/		/
	力骨付ラスを使用した場合、継ぎ目の重ねは上下、左右とも30mm以上重ね、且つ力骨どうしが重なり合っていないか?(p.13)	/		/
	力骨付ラスを使用した場合、力骨の交点に縦横150mm間隔で、ステーブルを留め付けたか?(p.13)	/		/
	力骨付ラスを使用した場合、出入隅部は150mm以上回し張りしたか?(p.14)	/		/
	波形ラスを使用した場合、継ぎ目の重ねは長手方向に1山以上、短手方向に30mm以上重ねたか?(p.10)	/		/
	波形ラスを使用した場合、継ぎ目部70mm以内、中間部100mm以内で谷部を留め付けたか?(p.10)	/		/
	波形ラスで出入隅部を回し張りした場合、300mm以上回して張り付けたか?(p.10)	/		/
	波形ラスで出入隅部を突き付け張りした場合、200mm程度の補強用平ラスを中央部で90°折り曲げ、波形ラスの上に張り付けたか?(p.10)	/		/
	波形ラスを横張りした場合、出入隅部の処理は突き付け張りとしたか?(p.10)	/		/
	開口部回りのラス張りは、開口部の形にカットし、張付けたか?(p.11)	/		/
	波形ラスや力骨付ラスを張り付けた後、開口部の四隅に補強用平ラスを重ね張りしたか?(p.11.15)	/		/
	アルミサッシ回りとラスは10mm以内で離したか?(p.12.16)	/		/

<その他 特記事項>

--

ラス下地既調合軽量セメントモルタル塗り工法施工要領書(案) 2013.6.21 第1.0版

◎直張り構法 施工管理チェックシート  
(専門工事業者 モルタル施工用)

モルタル施工完了印	印
-----------	---

<物件名>

<施工期間>

年 月 日 ~ 年 月 日

関連業者	担当者	TEL
専門工事業者(モルタル施工)	施工担当者	

<使用材料>

品目	製品名	数量	LOT
軽量セメントモルタル			
補強用ネット			

<専門工事業者(モルタル施工)チェック項目>

項目	チェック内容 ※()内の表記は施工要領書該当ページを示す。	検査日	是正処置内容 (判定が否の場合)	完了日
		判定		
事前確認	ラス下地既調合軽量セメントモルタル塗り工法施工要領書を読み把握したか?	/		/
軽量モルタルの塗り付け	出隅コーナー一定木は、下塗り前または下塗り時に軽量モルタルで固定したか?(p.19)	/		/
	出隅コーナー一定木は、コーナー部に水系を張り、軽量モルタルの塗り厚を考慮して位置を決めたか?(p.19)	/		/
	軽量モルタルの上塗り前にコーナー一定木を固定した軽量モルタルが硬化しているか確認したか?(p.19)	/		/
	軽量モルタルは、標準水量の水で機械練りし、十分に練り混ぜたか?(p.17)	/		/
	軽量モルタルは、可使時間以内に使用したか?(p.17)	/		/
	下塗りは、十分にコテ圧をかけて塗り付けたか?(p.17)	/		/
	下塗りは、ラスが隠れる程度の厚みで塗り付けたか?(p.17)	/		/
	上塗り時に、下塗りが著しく乾燥している場合、水湿しをしたか?(p.17)	/		/
	軽量モルタルの塗り厚は、規定の塗り厚となるよう塗り付けたか?(p.19)	/		/
	補強用ネットの伏せ込みは、軽量モルタルの上塗り後、直ちに行ったか?(p.17)	/		/
	補強用ネットの継ぎ目は、縦横ともに50mm以上重ねたか?(p.17)	/		/
	出隅部は、補強用ネットを回し張りする場合、200mm以上回したか?突き付け張りの場合、コーナーから5mm以内まで補強用ネットを伏せ込んだか?(p.18)	/		/
	補強用ネットの浮きやたるみ、しわがないか?(p.17.18)	/		/
	補強用ネットの張り残しや露出がないか?(p.17.18)	/		/
	開口部回り等にシーリング目地をとる場合、幅10mm×深さ10mm程度塗代を設けたか?(p.18)	/		/
	強風や直射日光等によるモルタルの急激な乾燥を防止するため、シート養生等適切な措置をしたか?(p.20)	/		/
施工時気温が5℃以下の場合又は硬化までに気温が5℃以下になることが予想される場合、施工を中止するか、適切な保温・採暖をしたか?(p.20)	/		/	
悪天候(降雨、降雪等)、またその恐れがある場合に施工を避けたか?(p.20)	/		/	

<その他 特記事項>

--

◎単層下地通気構法 施工管理チェックシート  
(工事管理者用)

左官工事完了印	印
---------	---

<物件名>

<工事期間>

年 月 日 ~ 年 月 日

関連業者		担当者		TEL
工事管理者		現場担当者		
専門工事業者(ラス施工)		施工担当者		
専門工事業者(モルタル施工)		施工担当者		

<使用材料>

品目	製品名	数量	LOT
防水シート			
ステーブル(防水シート用)			
補助胴縁			
ラス			
ステーブル(ラス用)			
軽量セメントモルタル			
補強用ネット			

<工事管理者チェック項目>

項目	チェック内容 ※()内の表記は施工要領書該当ページを示す。	検査日	是正処置内容 (判定が否の場合)	完了日
		判定		
左官工事 着工前 再確認	ラス下地既調合軽量セメントモルタル塗り工法施工要領書を読み把握したか?	/		/
	透湿防水シートに破れ・剥がれ等がないか?(p.25.27)	/		/
	通気胴縁・ヨレ止め胴縁・通気水切りが正確に固定されているか?(p.28)	/		/
ラス施工	ラスの施工が全て完了しているか?	/		/
モルタル 施工	モルタルの施工が全て完了しているか?	/		/
仕上材ま での養生	モルタル上塗り後、通常期10日以上、冬期14日以上養生をしたか?(p.38)	/		/

<その他 特記事項>

◎単層下地通気構法 施工管理チェックシート  
(専門工事業者 ラス施工用)

ラス施工完了印	印
---------	---

<物件名>

<施工期間>                      年                      月                      日                      ~                      年                      月                      日		
関連業者	担当者	TEL
専門工事業者(ラス施工)	施工担当者	

<使用材料>

品目	製品名	数量	LOT
防水シート			
ステーブル(防水シート用)			
補助胴縁			
ラス			
ステーブル(ラス用)			

<専門工事業者(ラス施工)チェック項目>

項目	チェック内容 ※()内の表記は施工要領書該当ページを示す。	検査日	是正処置内容 (判定が否の場合)	完了日
		判定		
事前確認	ラス下地既調合軽量セメントモルタル塗り工法施工要領書を読み把握したか?	/		/
防水紙付きラスの張り付け	補助胴縁を縦胴縁の中間位置に取り付けたか?(p.30)	/		/
	土台まわり・下屋取り合い部に150mm程度の防水シートを張り付けたか?(p.30)	/		/
	必要に応じて開口部回りの左側及び上側に150mm程度の防水シートを張り付けたか?(p.30)	/		/
	ラスは施工要領書で指定のものを使用したか?(p.23)	/		/
	ラスを留め付けるステーブルは施工要領書で指定のものを使用したか?(p.23)	/		/
	ラスの留め付けはエアータッカーを使用したか?(p.34)	/		/
	ラスは、横張りで千鳥に右下から張り付けたか?(p.31)	/		/
	ラスの継ぎ目は、上下・左右で30mm以上重ねたか?(p.31)	/		/
	ステーブルの間隔は、通気胴縁上で横455mm以下、縦150mm以下で留め付けたか?(メーターモジュールの場合は、横500mm以下とする。)(p.34)	/		/
	ステーブルはラスの太リブ部分に留め付けたか?(p.34)	/		/
	切断したラスを使用した際に切断面の防水紙又はラスを50mm以上切り取ったか?(p.30)	/		/
	ラスを重ね合わせた際に上になるラスの防水紙をカットし、ラス部分及び防水紙部分をいずれも30mm以上重ねたか?(p.32)	/		/
	出隅・入隅は補強用平ラスもしくは長手方向に切断した防水紙付ラスを用いて、適切に張り付けたか?(p.32)	/		/
	胴縁上で、ラスのはね上がりがないか?(p.34)	/		/
	開口部回り・土台回り・軒下部は150mm間隔でステーブルを留め付けたか?(p.34)	/		/
アルミサッシ回りとラスは10mm以内で離したか?(p.34)	/		/	

<その他 特記事項>

--

◎単層下地通気構法 施工管理チェックシート  
(専門工事業者 モルタル施工用)

モルタル施工完了印	印
-----------	---

<物件名>

<施工期間>                      年                      月                      日                      ~                      年                      月                      日		
関連業者	担当者	TEL
専門工事業者(モルタル施工)	施工担当者	

<使用材料>

品目	製品名	数量	LOT
軽量セメントモルタル			
補強用ネット			

<専門工事業者(モルタル施工)チェック項目>

項目	チェック内容 ※()内の表記は施工要領書該当ページを示す。	検査日	是正処置内容 (判定が否の場合)	完了日
		判定		
事前確認	ラス下地既調合軽量セメントモルタル塗り工法施工要領書を読み把握したか?	/		/
軽量モルタルの塗り付け	出隅コーナー一定木は、下塗り前または下塗り時に軽量モルタルで固定したか?(p.37)	/		/
	出隅コーナー一定木は、コーナー部に水系を張り、軽量モルタルの塗り厚を考慮して位置を決めたか?(p.37)	/		/
	軽量モルタルの上塗り前にコーナー一定木を固定した軽量モルタルが硬化しているか確認したか?(p.37)	/		/
	軽量モルタルは、標準水量の水で機械練りし、十分に練り混ぜたか?(p.35)	/		/
	軽量モルタルは、可使時間以内に使用したか?(p.35)	/		/
	下塗りは、コテで軽くなできるように塗り付けたか?(p.35)	/		/
	下塗りは、ラスが隠れる程度の厚みで塗り付けたか?(p.35)	/		/
	上塗り時に、下塗りが著しく乾燥している場合、水湿しをしたか?(p.35)	/		/
	軽量モルタルの塗り厚は、規定の塗り厚となるよう塗り付けたか?(p.37)	/		/
	補強用ネットの伏せ込みは、軽量モルタルの上塗り後、直ちに行ったか?(p.35)	/		/
	補強用ネットの継ぎ目は、縦横ともに50mm以上重ねたか?(p.35)	/		/
	出隅部は、補強用ネットを回し張りする場合、200mm以上回したか?突き付け張りの場合、コーナーから5mm以内まで補強用ネットを伏せ込んだか?(p.35.36)	/		/
	補強用ネットの浮きやたるみ、しわがないか?(p.35.36)	/		/
	補強用ネットの張り残しや露出がないか?(p.35)	/		/
	開口部回り等にシーリング目地をとる場合、幅10mm×深さ10mm程度塗代を設けたか?(p.36)	/		/
	強風や直射日光等によるモルタルの急激な乾燥を防止するため、シート養生等適切な措置をしたか?(p.42)	/		/
	施工時気温が5℃以下の場合又は硬化までに気温が5℃以下になることが予想される場合、施工を中止するか、適切な保温・採暖をしたか?(p.42)	/		/
	悪天候(降雨、降雪等)、またその恐れがある場合に施工を避けたか?(p.42)	/		/

<その他 特記事項>

--

◎二層下地通気構法 施工管理チェックシート  
(工事管理者用)

左官工事完了印	印
---------	---

<物件名>

<工事期間> 年 月 日 ~ 年 月 日

関連業者		担当者		TEL
工事管理者		現場担当者		
専門工事業者(防水シート施工)		施工担当者		
専門工事業者(ラス施工)		施工担当者		
専門工事業者(モルタル施工)		施工担当者		

<使用材料>

品目	製品名	数量	LOT
防水シート			
ステーブル(防水シート用)			
防水テープ			
ラス			
ステーブル(ラス用)			
軽量セメントモルタル			
補強用ネット			

<工事管理者チェック項目>

項目	チェック内容 ※()内の表記は施工要領書該当ページを示す。	検査日	是正処置内容 (判定が否の場合)	完了日
		判定		
左官工事 着工前 再確認	ラス下地既調合軽量セメントモルタル塗り工法施工要領書を読み把握したか?	／		／
	構造用合板が使用されているか?(p.46)	／		／
	構造用合板の接合部に著しい段差がないか?	／		／
	サッシ周囲に先張り防水シートが張られているか?(p.50)	／		／
	サッシ周囲の両面粘着防水テープが張られているか?(p.50)	／		／
防水シート 施工	防水シートの施工が全て完了しているか?	／		／
ラス施工	ラスの施工が全て完了しているか?	／		／
モルタル 施工	モルタルの施工が全て完了しているか?	／		／
仕上材までの養生	モルタル上塗り後、通常期10日以上、冬期14日以上養生をしたか?(p.65)	／		／

<その他 特記事項>

Empty space for special notes
-------------------------------

◎二層下地通気構法 施工管理チェックシート  
(専門工事業者 防水シート施工用)

防水シート施工完了印	印
------------	---

<物件名>

<施工期間>                      年                      月                      日                      ~                      年                      月                      日		
関連業者	担当者	TEL
専門工事業者(防水シート施工)	施工担当者	

<使用材料>

品目	製品名	数量	LOT
防水シート			
ステーブル(防水シート用)			
防水テープ			

<専門工事業者(防水シート施工)チェック項目>

項目	チェック内容 ※()内の表記は施工要領書該当ページを示す。	検査日	是正処置内容 (判定が否の場合)	完了日
		判定		
事前確認	ラス下地既調合軽量セメントモルタル塗り工法施工要領書を読み把握したか?	/		/
防水シートの張り付け	防水シートは施工要領書で指定のものを使用したか?(p.44)	/		/
	防水シートを留め付けるステーブルは施工要領書で指定のものを使用したか?(p.44)	/		/
	防水シートの留め付けはガンタッカー又は電動タッカーを使用したか?(p.52)	/		/
	防水シートは、横張りで下から張り、上にくるシートが外側になっているか?(p.52)	/		/
	防水シートの継ぎ目は、左右150mm以上、上下90mm以上重ねたか?(p.52)	/		/
	ステーブルの留め付け間隔は、上下・左右の重ね部で300mm程度、その他は要所に留め付けたか?(p.52)	/		/
	防水シートの張り付け後に、しわ・たるみ・損傷等が生じていないか?(p.52.54)	/		/
	防水シートの左右の継ぎ目に片面粘着防水テープを張り付けたか?(p.52)	/		/
	防水シートの入隅処理は、両側それぞれ75mm以上重ね張りしたか?(p.53)	/		/
	防水シートの出隅処理は、両側それぞれ75mm以上重ね張りするか、継ぎ目を設けないで通して張付けたか?(p.53)	/		/

<その他 特記事項>

--

◎二層下地通気構法 施工管理チェックシート  
(専門工事業者 ラス施工用)

ラス施工完了印	印
---------	---

<物件名>

<施工期間>                      年                      月                      日                      ~                      年                      月                      日		
関連業者	担当者	TEL
専門工事業者(ラス施工)	施工担当者	

<使用材料>

品目	製品名	数量	LOT
ラス			
ステーブル(ラス用)			

<専門工事業者(ラス施工)チェック項目>

項目	チェック内容 ※()内の表記は施工要領書該当ページを示す。	検査日	是正処置内容 (判定が否の場合)	完了日
		判定		
事前確認	ラス下地既調合軽量セメントモルタル塗り工法施工要領書を読み把握したか?	/		/
ラスの張り付け	ラスは施工要領書で指定のものを使用したか?(p.44)	/		/
	ラスを留め付けるステーブルは施工要領書で指定のものを使用したか?(p.44)	/		/
	ラスの留め付けはエアータッカーを使用したか?(p.55.59)	/		/
	ラスは、縦又は横張りで千鳥張りしたか?(p.55.58)	/		/
	力骨付ラスを使用した場合、表裏を確認し、力骨の谷部が下地側に張られているか?(p.58)	/		/
	力骨付ラスを使用した場合、継ぎ目の重ねは上下、左右とも30mm以上重ね、且つ力骨どうしが重なり合っていないか?(p.58)	/		/
	力骨付ラスを使用した場合、力骨の交点に縦横150mm間隔で、ステーブルを留め付けたか?(p.59)	/		/
	力骨付ラスを使用した場合、出入隅部は150mm以上回し張りしたか?(p.60)	/		/
	波形ラスを使用した場合、継ぎ目の重ねは長手方向に1山以上、短手方向に30mm以上重ねたか?(p.55)	/		/
	波形ラスを使用した場合、継ぎ目部70mm以内、中間部100mm以内で谷部を留め付けたか?(p.55)	/		/
	波形ラスで出入隅部を回し張りした場合、300mm以上回して張り付けたか?(p.55)	/		/
	波形ラスで出入隅部を突き付け張りした場合、200mm程度の補強用平ラスを中央部で90°折り曲げ、波形ラスの上に張り付けたか?(p.55)	/		/
	波形ラスを横張りした場合、出入隅部の処理は突き付け張りとしたか?(p.55)	/		/
	開口部回りのラス張りは、開口部の形にカットし、張付けたか?(p.56)	/		/
	波形ラスや力骨付ラスを張り付けた後、開口部の四隅に補強用平ラスを重ね張りしたか?(p.56.61)	/		/
	アルミサッシ回りとラスは10mm以内で離したか?(p.57.61)	/		/

<その他 特記事項>



◎二層下地通気構法 施工管理チェックシート  
(専門工事業者 モルタル施工用)

モルタル施工完了印	印
-----------	---

<物件名>

<施工期間>	年 月 日 ~ 年 月 日
関連業者	担当者
専門工事業者(モルタル施工)	施工担当者
	TEL

<使用材料>

品目	製品名	数量	LOT
軽量セメントモルタル			
補強用ネット			

<専門工事業者(モルタル施工)チェック項目>

項目	チェック内容 ※()内の表記は施工要領書該当ページを示す。	検査日	是正処置内容 (判定が否の場合)	完了日
		判定		
事前確認	ラス下地既調合軽量セメントモルタル塗り工法施工要領書を読み把握したか?	/		/
軽量モルタルの塗り付け	出隅コーナー一定木は、下塗り前または下塗り時に軽量モルタルで固定したか?(p.64)	/		/
	出隅コーナー一定木は、コーナー部に水系を張り、軽量モルタルの塗り厚を考慮して位置を決めたか?(p.64)	/		/
	軽量モルタルの上塗り前にコーナー一定木を固定した軽量モルタルが硬化しているか確認したか?(p.64)	/		/
	軽量モルタルは、標準水量の水で機械練りし、十分に練り混ぜたか?(p.62)	/		/
	軽量モルタルは、可使時間以内に使用したか?(p.62)	/		/
	下塗りは、十分にコテ圧をかけて塗り付けたか?(p.62)	/		/
	下塗りは、ラスが隠れる程度の厚みで塗り付けたか?(p.62)	/		/
	上塗り時に、下塗りが著しく乾燥している場合、水湿しをしたか?(p.62)	/		/
	軽量モルタルの塗り厚は、規定の塗り厚となるよう塗り付けたか?(p.64)	/		/
	補強用ネットの伏せ込みは、軽量モルタルの上塗り後、直ちに行ったか?(p.62)	/		/
	補強用ネットの継ぎ目は、縦横ともに50mm以上重ねたか?(p.62)	/		/
	出隅部は、補強用ネットを回し張りする場合、200mm以上回したか?突き付け張りの場合、コーナーから5mm以内まで補強用ネットを伏せ込んだか?(p.62.63)	/		/
	補強用ネットの浮きやたるみ、しわがないか?(p.62.63)	/		/
	補強用ネットの張り残しや露出がないか?(p.62)	/		/
	開口部回り等にシーリング目地をとる場合、幅10mm×深さ10mm程度塗代を設けたか?(p.63)	/		/
	強風や直射日光等によるモルタルの急激な乾燥を防止するため、シート養生等適切な措置をしたか?(p.65)	/		/
	施工時気温が5℃以下の場合又は硬化までに気温が5℃以下になることが予想される場合、施工を中止するか、適切な保温・採暖をしたか?(p.65)	/		/
	悪天候(降雨、降雪等)、またその恐れがある場合に施工を避けたか?(p.65)	/		/

<その他 特記事項>

--